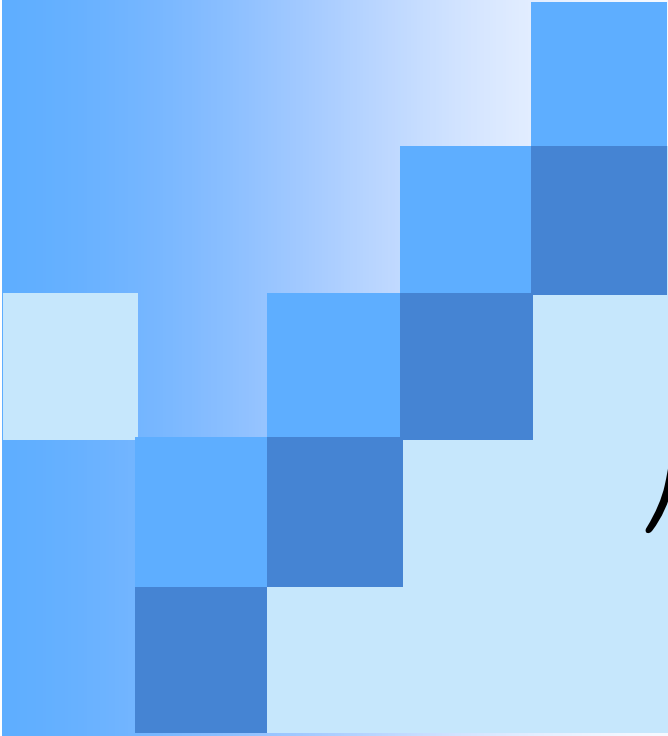




第1回 八戸駅前広場整備基本計画 検討委員会

平成26年8月27日

次 第

- I. 検討委員会の目的
- II. 検討委員会の進め方
- III. 第1回委員会の内容
- IV. 意見聴取

I. 検討委員会の目的

本編資料P1

- 現在、暫定供用中である八戸駅西口駅前広場について、本格供用に向けた整備事業の実施を検討中
(平成29 年度末完成予定)
- この整備事業に先立ち、八戸駅前広場基本計画策定業務において、整備の基本方針を定める
- 駅前広場利用者等で構成する当委員会を設置し、八戸駅全体の利便性向上を目的とした機能的な施設配置等について調査及び検討を行い、意見を取りまとめ、「八戸駅前広場整備基本計画」を策定するものである。

Ⅱ.検討の進め方

本編資料P1

【検討内容】

【検討委員会】

■基礎調査（交通実態調査）

- 交通量調査 ●交通手段別調査 ●利用者アンケート調査等

■現況と課題の整理

- 西口広場の課題 ●東口広場の課題 ●広場全体の課題など

■整備目標の検討

- 需要分析 ●必要施設と規模 ●配置方針など

■整備計画の検討

- 動線検討 ●整備方針 ●配置検討案と計画素案など

■実現化方策の検討

- 具体的整備手法の検討 ●機能改善整備手法の検討など

■第1回委員会（H26.8.27）

- 現状分析・課題抽出
（課題の共有）
- 整備方向性について意見聴取

■第2回委員会（H26.11予定）

- 整備方針の確認
- 施設配置案について意見聴取

■第3回委員会（H27.2予定）

- 基本計画のとりまとめ
- 今後の進め方、市民合意形成について意見聴取

八戸駅前広場整備基本計画

Ⅲ. 第1回委員会の内容

本編資料P1

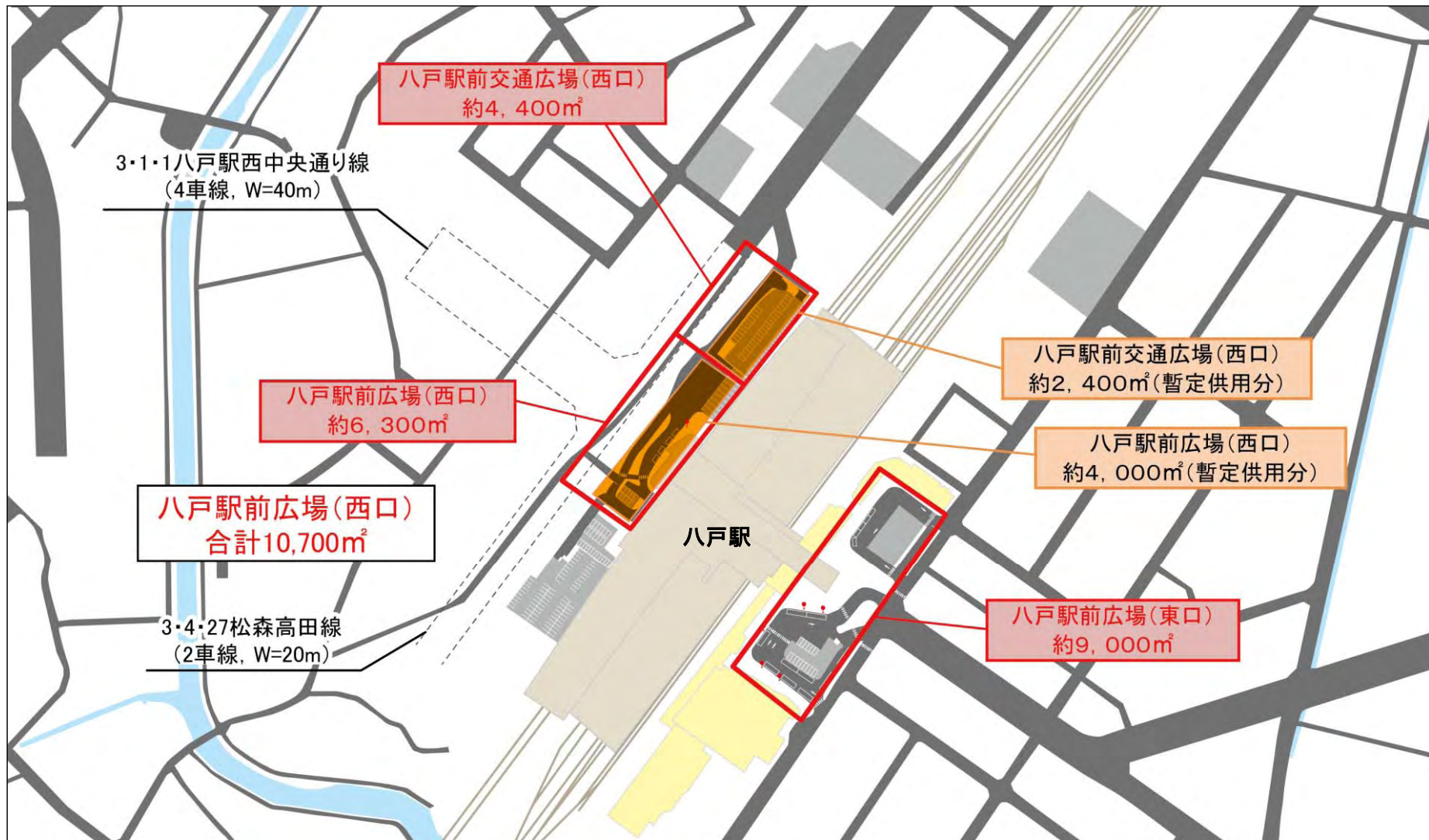
- 1. 八戸駅周辺地区の概要
- 2. 八戸駅の利用実態
 - ・交通実態調査 ・アンケート調査結果
- 3. 現状と課題の整理
- 4. 整備の方向性(既定計画)について
 - ・上位関連計画
 - ・八戸駅周辺地区の整備方向性(既定計画)

■ 1. 八戸駅周辺地区の概要

(1) 対象地区

本編資料P2

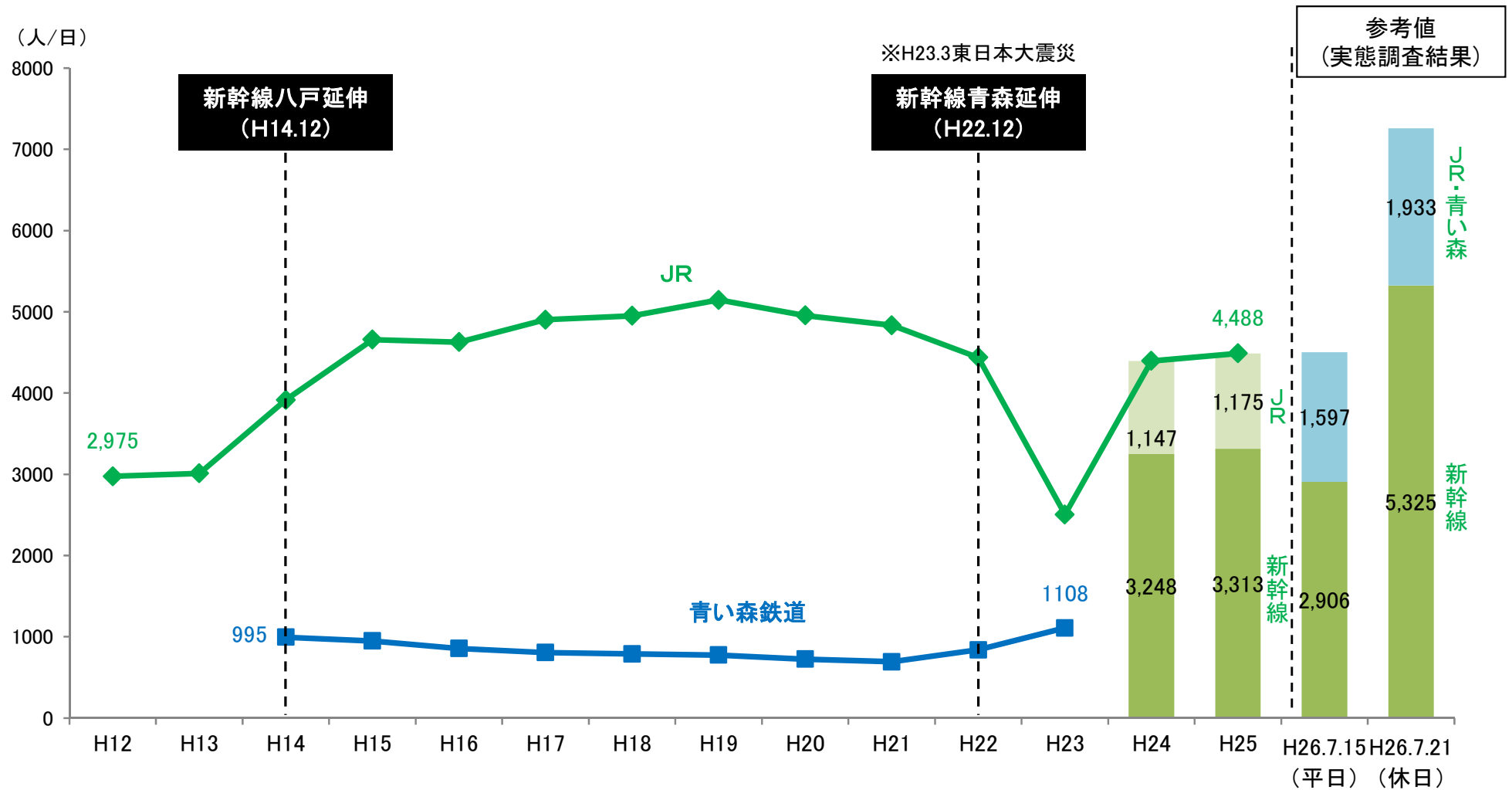
- 八戸駅前広場（西口）が対象であるが、接続する都市計画道路及び八戸駅前広場（東口）を含めた機能、施設配置の検討



(2) 八戸駅の利用状況

本編資料P4

- 新幹線乗車数が、年平均で、3千人/日程度、休日では、5千人/日程度の利用



▲八戸駅乗車数の推移

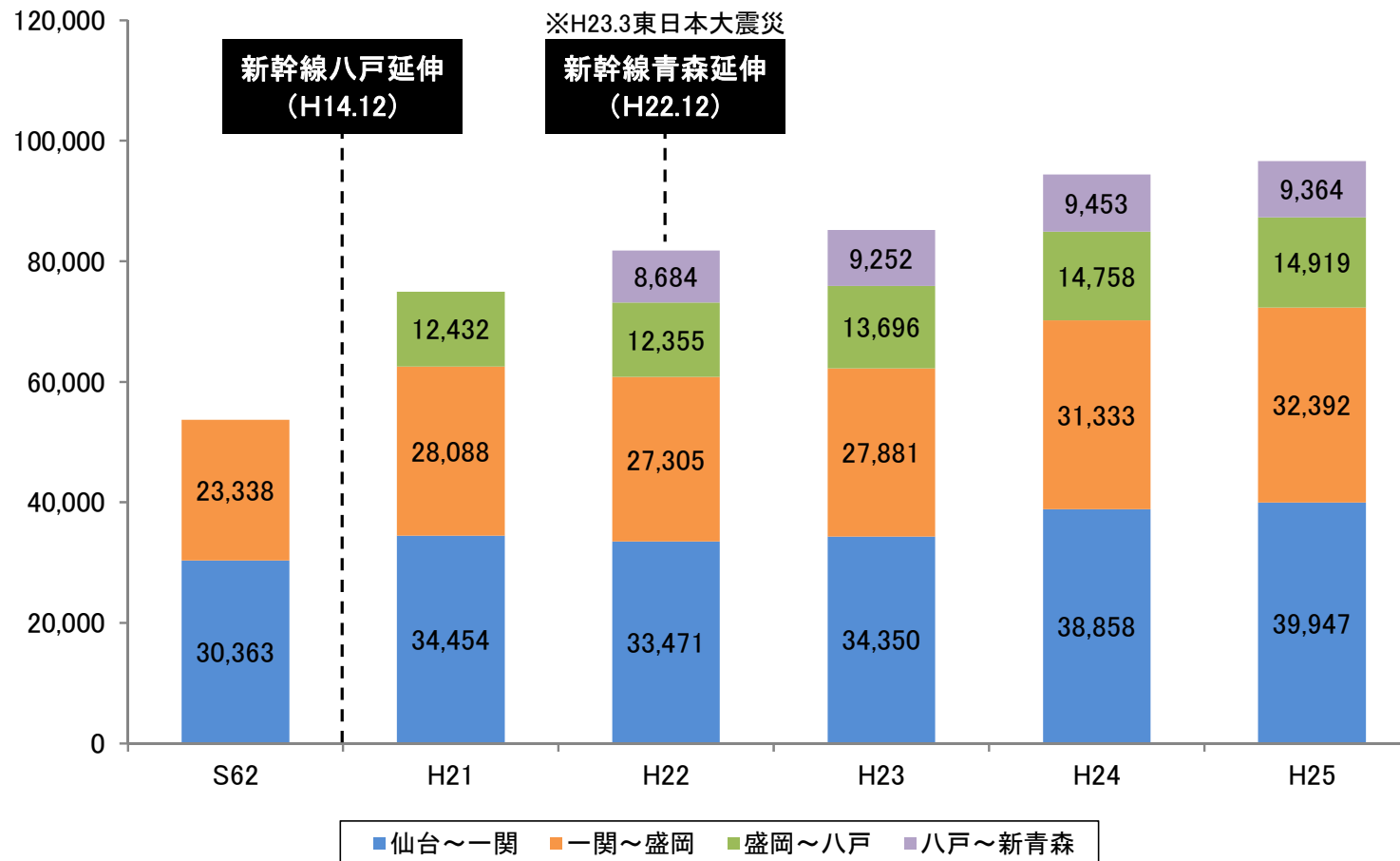
※H23は東日本大震災等の影響による特異値、H26は実態調査結果

資料：JR東日本、八戸市統計資料より

(2) 八戸駅の利用状況

本編資料P5

- 東北新幹線の八戸駅（H14.12）、新青森駅（H22.12）への延伸に伴い平均通過人員は増加傾向



▲平均通過人員

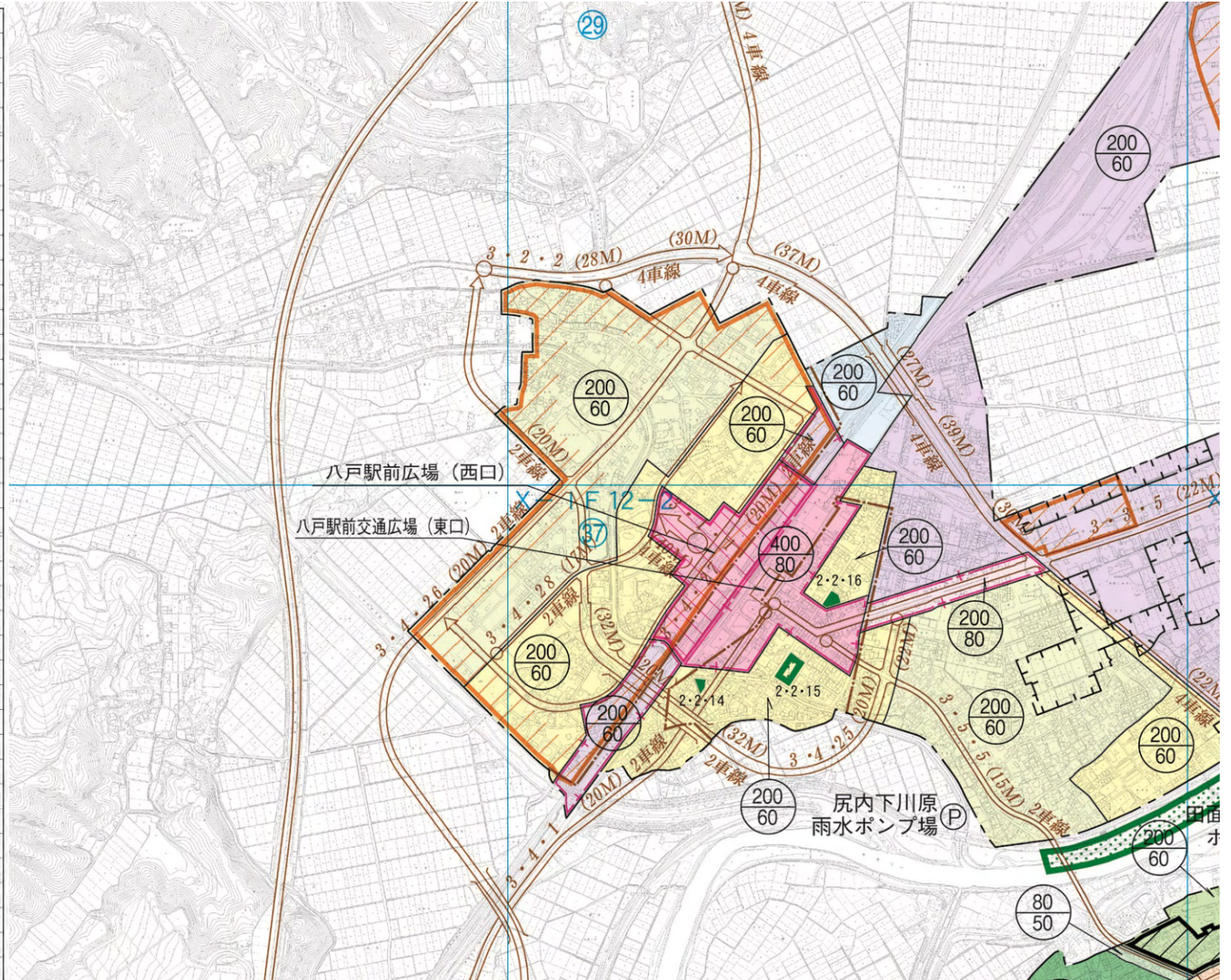
※【平均通過人員】＝【各路線の年度内の旅客輸送人キロ】÷【当該路線の年度内営業キロ】÷【年度内営業日数】

(3) 八戸駅周辺の都市計画

本編資料P9

- 八戸駅西地区土地区画整理事業が事業中。駅周辺は、「商業地域」に指定

凡 例		
	都 市 計 画 区 域	
	行 政 区 域	
	市 街 化 区 域	
	用途地域内市街化調整区域	
用 途 地 域	建 ぺ い 率	容 積 率
	第一種低層住居専用地域	5/10 8/10
	第二種低層住居専用地域	6/10 15/10
	第一種中高層住居専用地域	5/10 8/10
	第二種中高層住居専用地域	6/10 20/10
	第一種住居地域	6/10 20/10
	第二種住居地域	6/10 20/10
	準 住 居 地 域	6/10 20/10
	近 隣 商 業 地 域	8/10 20/10
	商 業 地 域	8/10 40/10
	準 工 業 地 域	8/10 60/10
	工 業 地 域	6/10 20/10
	工 業 専 用 地 域	6/10 20/10
	無 指 定	6/10 20/10
	都 市 計 画 道 路	
	公 園 ・ 緑 地 ・ 墓 園	
	防 火 地 域	
	準 防 火 地 域	
	臨 港 地 区	
	高 度 利 用 地 区	
	高 度 地 区	
	特 別 用 途 地 区	
	地 区 計 画	
	人 口 集 中 地 区 (H22)	
	調 整 池	
	ポ ン プ 場	
	処 理 場	
	そ の 他 の 都 市 施 設	
	特 定 行 政 庁 の 許 可	
	土 地 区 画 整 理 事 業	
	都 市 高 速 鉄 道	
	駅 前 (交 通) 広 場	

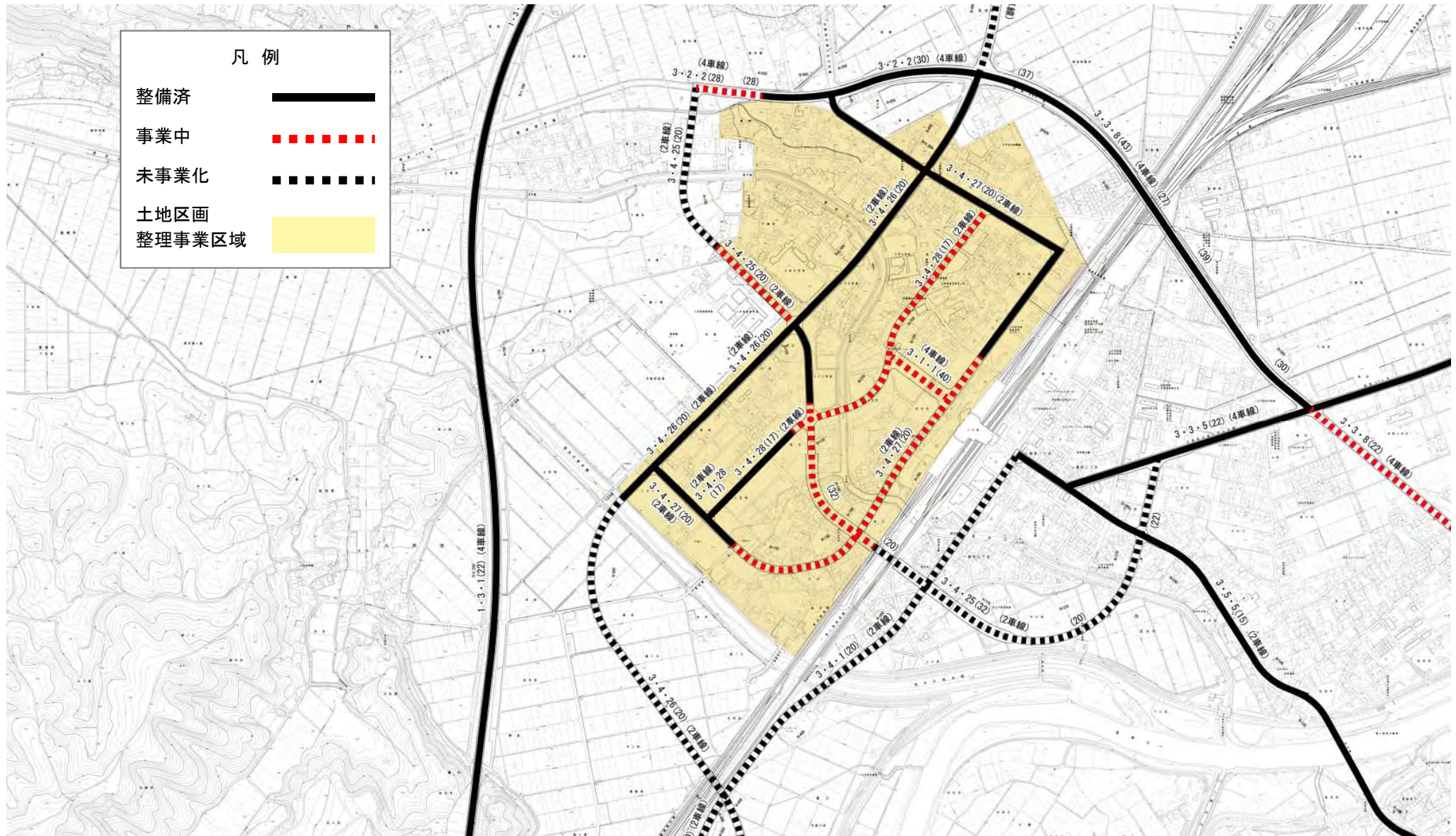


▲八戸駅周辺地区の都市計画（H26.7現在）

(3) 八戸駅周辺の都市計画

本編資料P10

- 八戸駅西口の都市計画道路は、概ね事業中。駅東西を連絡する都市計画道路は、一部未事業化区間



▲八戸駅周辺地区の都市計画道路整備状況（H26.7現在）

■ 2. 八戸駅の利用実態

八戸駅の利用実態

本編資料P11～

- 八戸駅の利用実態を「交通実態調査」「駅利用者アンケート調査」及び「統計資料」より整理

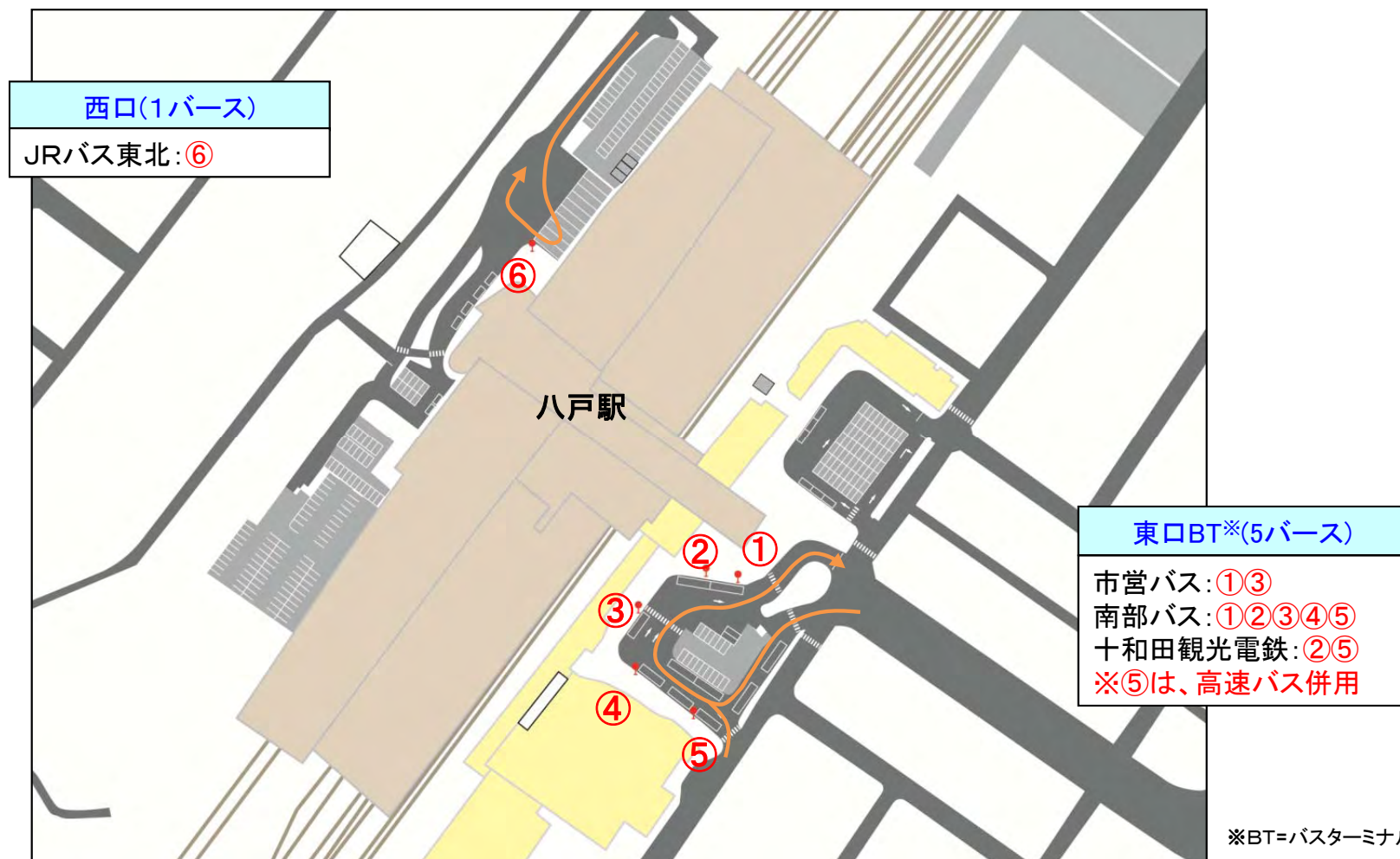
	交通実態調査	駅利用者アンケート調査
調査内容	・自動車・歩行者交通量 ・観光バス・タクシー利用状況 ・駐車場・駐輪場利用状況 等	・駅利用の目的・交通手段・発着地 ・駅利用者満足度 ・駅前広場整備へのニーズ 等
調査日	平日:7月15日(火)6:00～23:30 休日:7月21日(祝)6:00～23:30	・左記両日に配布(各2000票配布) ・投函ボックス・郵送回収(7/31までに630票回収)
実施状況	 	 

（１）路線バス

本編資料P11

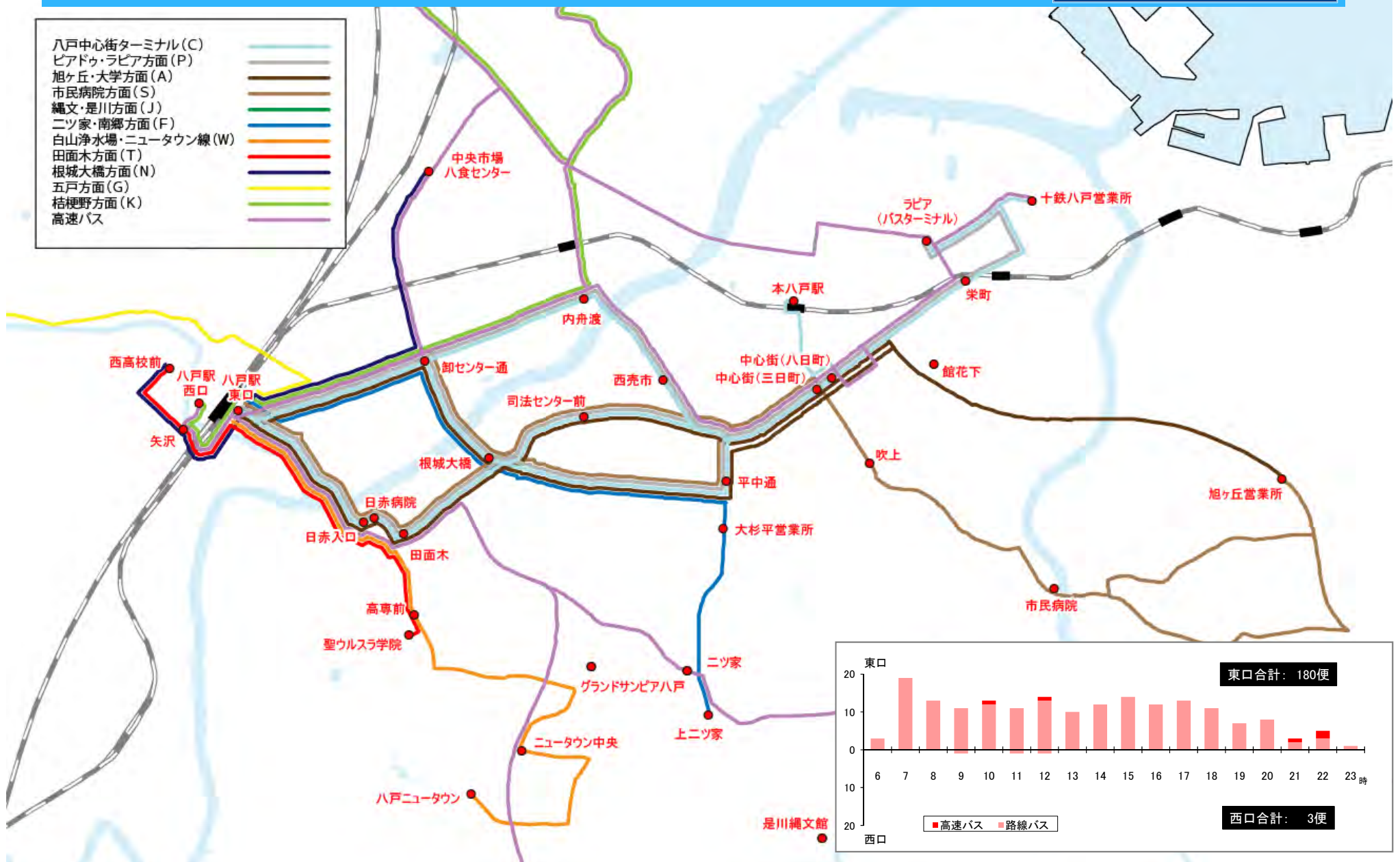
- ◆日運行本数は、180本/日(平日、乗車のみ) ※休日は、139本/日。
- ◆発着場所は、「東口BT※」に集中し、「西口」の利用は極めて少ない状況（3～6本/日）。
- ◆概ね利用者満足度は高いが、「便数の少なさ」「わかりにくさ」などの指摘が2割弱。

西口への配置可能性があるバスシステムの整理及び配置検討



(1) 路線バス

本編資料P13



▲八戸駅発着のバス路線

▲八戸駅バス発便数
(平日, H26.6時点)

(2) 高速バス

本編資料P19

- ◆日運行本数は、3本/日(平日、乗車のみ)
- ◆発着場所は、「東口BT※」の5番のりばで、運行本数が少ない。
- ◆(仮)八戸西スマートインターチェンジの整備で、高速道路と八戸駅のアクセスが向上。

事業者ヒアリング等による高速バス利用ニーズの把握

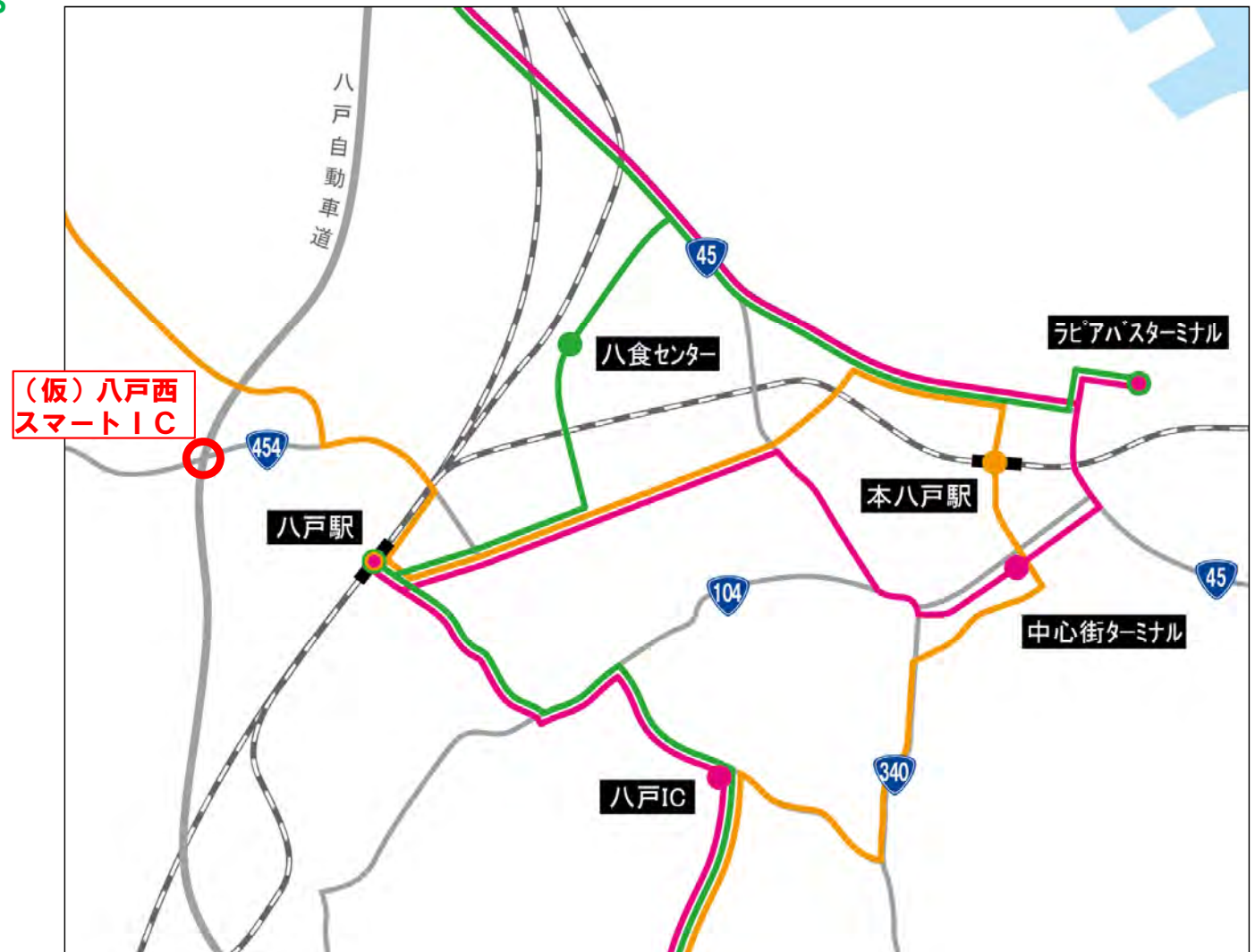
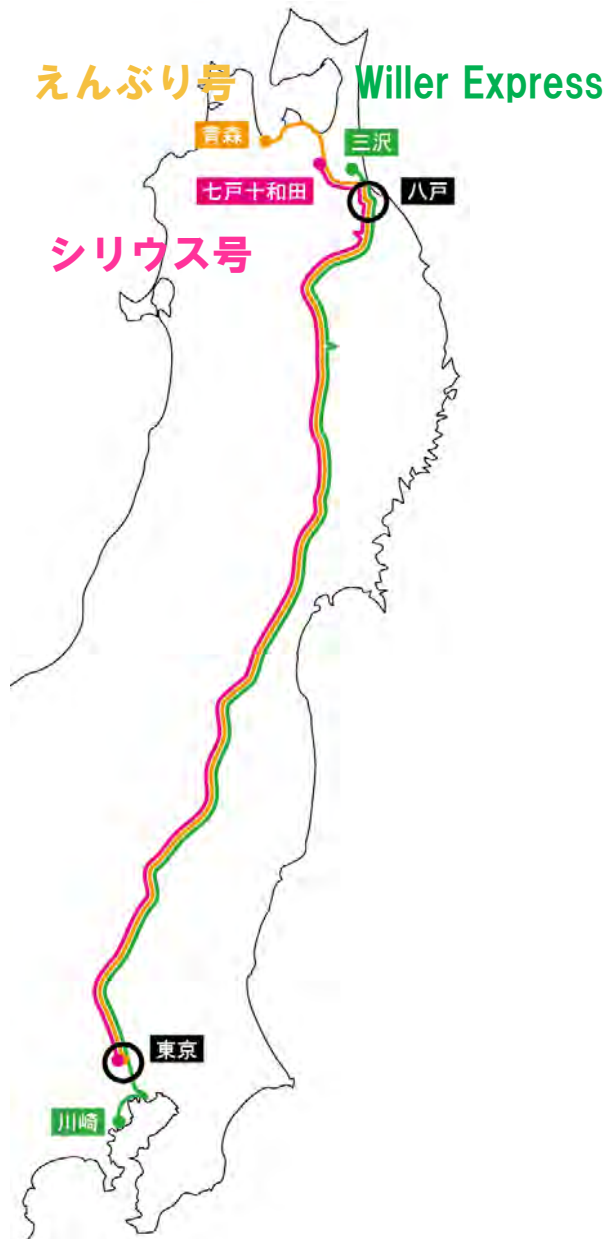


(2) 高速バス

本編資料P20

- 八戸駅発は、3路線。八戸駅を経由しない中心街の経由便は、他に4路線あり

※「しもきた号」が近日運行開始予定



▲八戸駅発着の高速バスの運行ルート

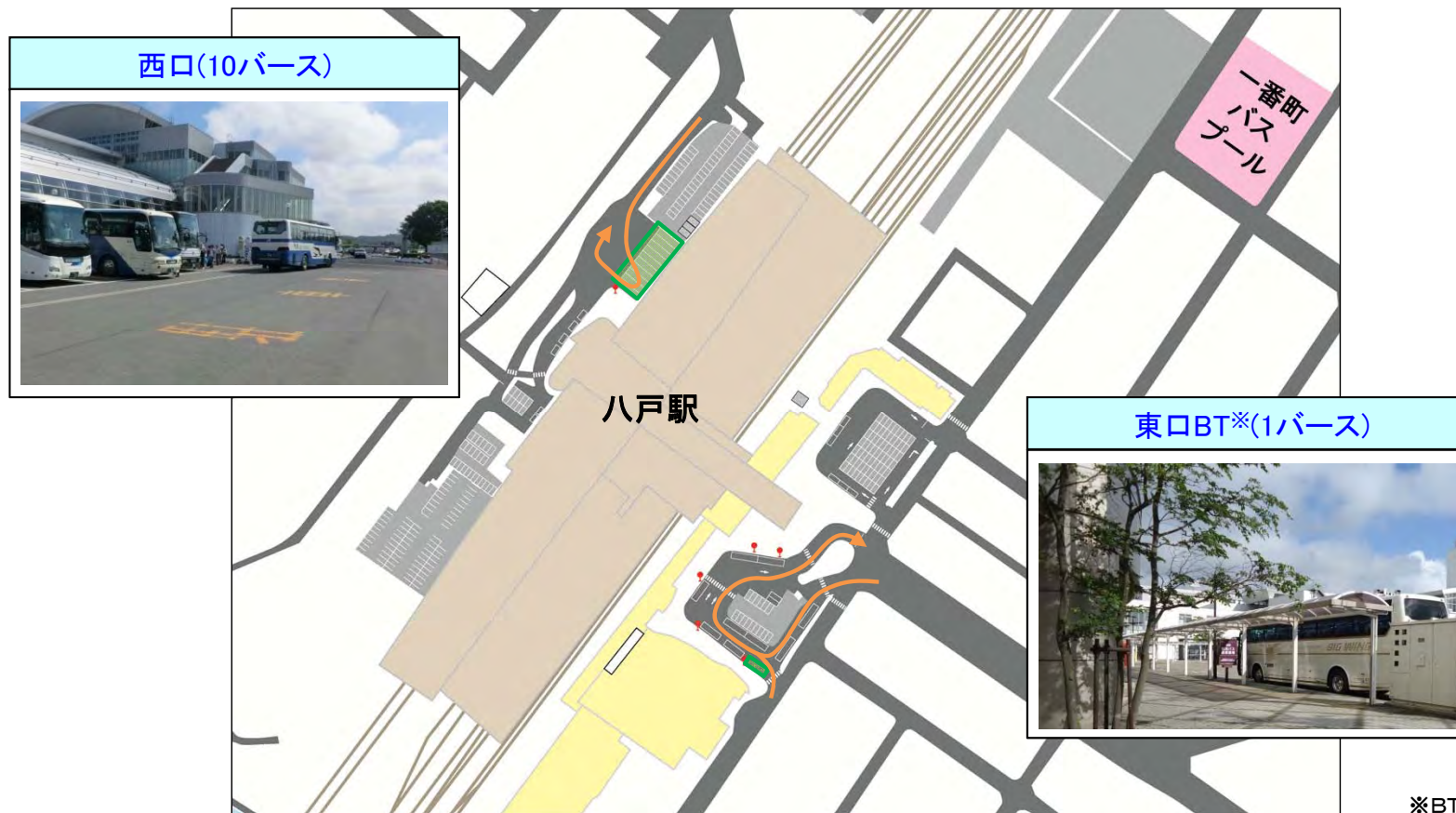
※想定される運行ルート

(3) 観光・送迎バス

本編資料P21

- ◆観光・送迎用の待機場及び乗降場は、東口に1バス、西口に10バス確保されている。他、東口北側に、一番町バスプールが整備されている。
- ◆利用は、西口に集中し、20台/日程度で、ピーク時でも5台/時程度(調査時)。
- ◆利用状況は低調であるが、駅前商店会からは、東口での観光バスターミナル設置要望がある。

利用実態と観光客動線を踏まえた規模設定・配置バランスが課題



※BT=バスターミナル

(4) タクシー

本編資料P23

〈乗降場〉

- ◆乗車バスは、5バス（東口）、2バス（西口）、降車バスは、3バス（東口）。
- ◆利用台数は、ピーク時最大乗車52台/h、降車22台/h（東口、利用の多い休日）。

〈タクシープール〉

- ◆プールは、63台（東口）、10台（西口）。
- ◆待機台数が、乗車台数を上回り、平均待機時間は、60分を超え駐車場化している。
- ◆利用者意見は、利用に対しての満足度は高いが、待機スペースが過大という指摘が多い。

タクシープールの適正規模配置とその運用が課題

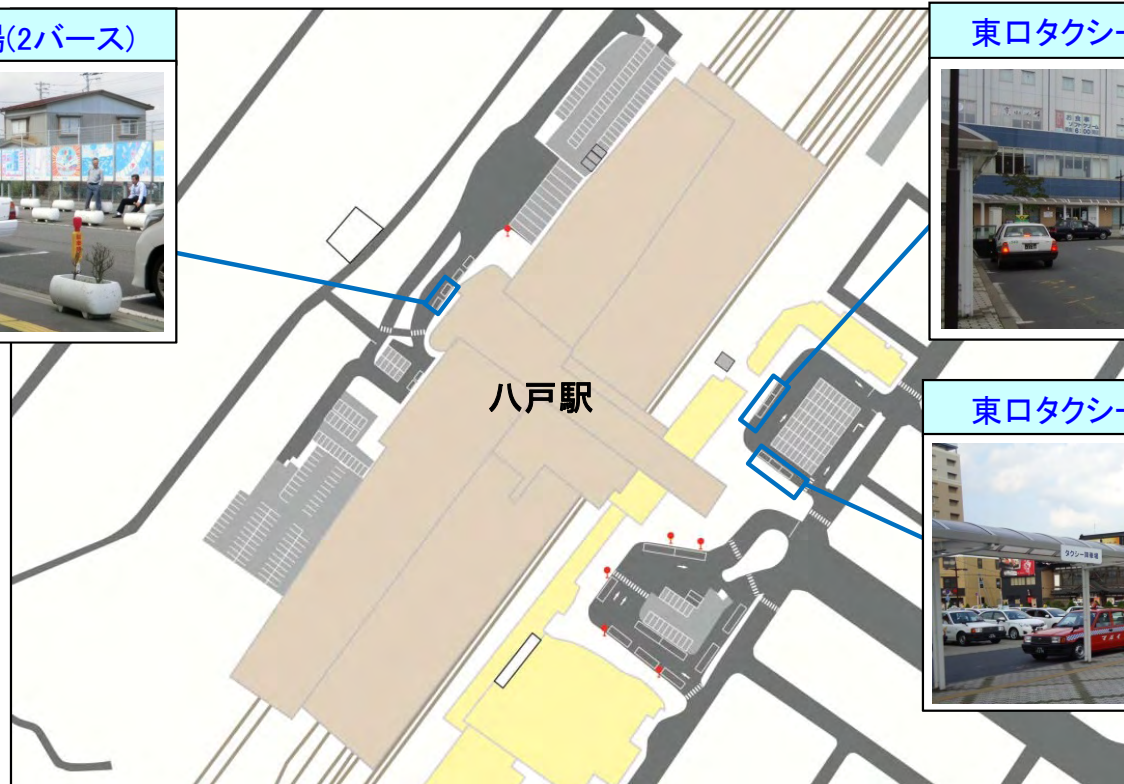
西口タクシー乗車場(2バス)



東口タクシー乗車場(5バス)



東口タクシー降車場(3バス)



(4) タクシー

本編資料P23

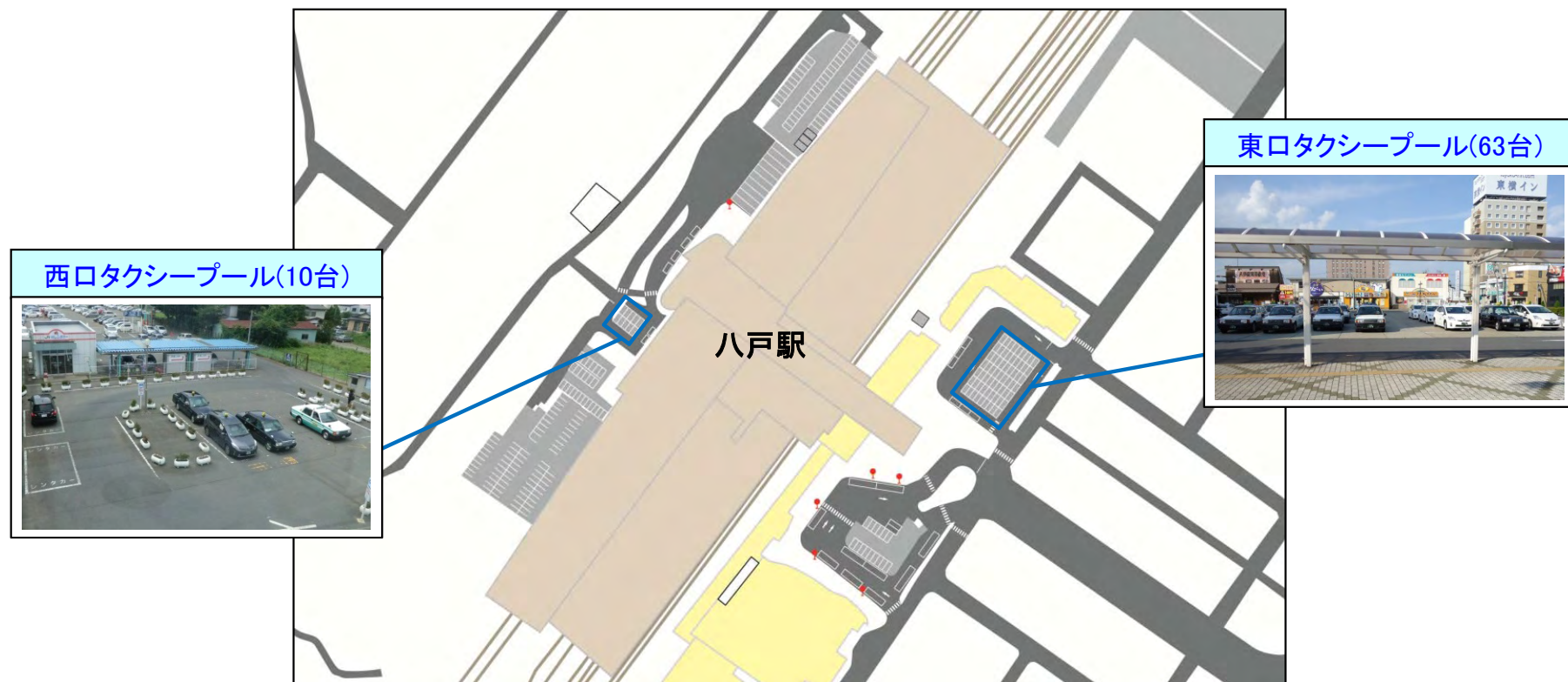
〈乗降場〉

- ◆乗車バスは、5バス（東口）、2バス（西口）、降車バスは、3バス（東口）。
- ◆利用台数は、ピーク時最大乗車52台/h、降車22台/h（東口、利用の多い休日）。

〈タクシープール〉

- ◆プールは、63台（東口）、10台（西口）。
- ◆待機台数が、乗車台数を上回り、平均待機時間は、60分を超え駐車場化している。
- ◆利用者意見は、利用に対しての満足度は高いが、待機スペースが過大という指摘が多い。

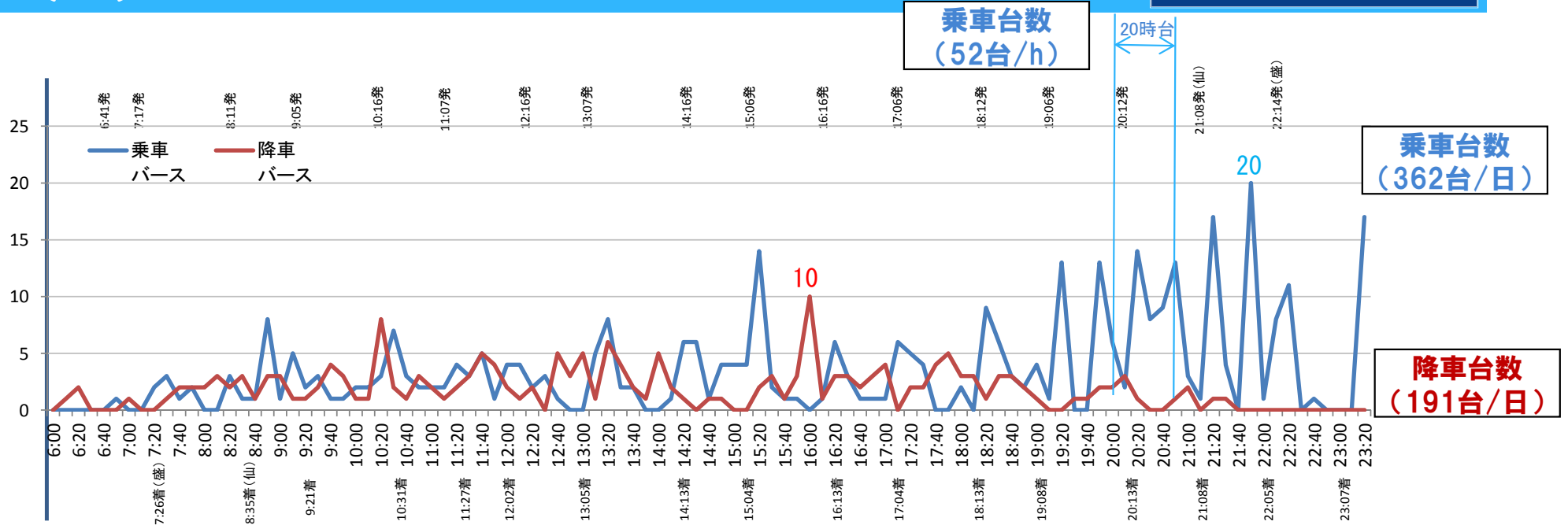
タクシープールの適正規模配置とその運用が課題



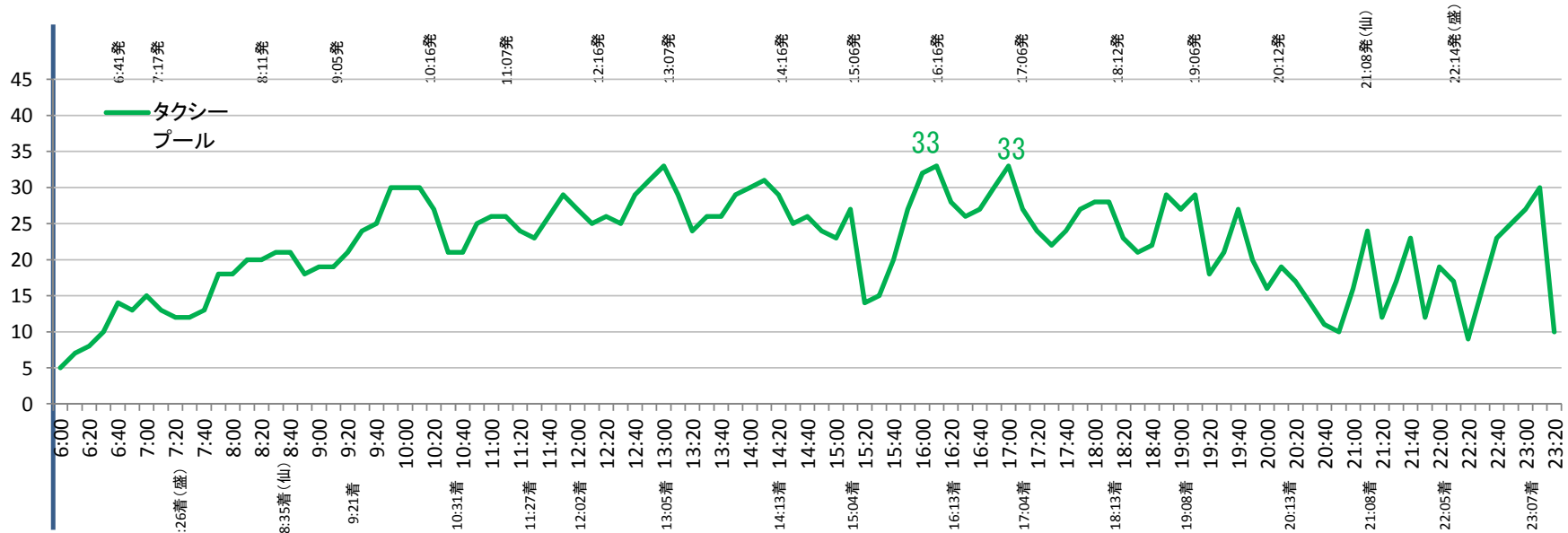
(4) タクシー

本編資料P25

バス利用台数



プール待機台数



▲東口タクシー利用台数・待機台数 (H26.7.21 (祝))

(5) 自家用車

本編資料P27

〈乗降場〉

- ◆乗降一体型として、東口に6台程度、西口に2バス設置。
- ◆利用台数は、東口と西口で同程度（各500～900台/日程度）。
- ◆東口乗降場の不足や配置への市民意見が多くみられる。

ニーズの高い乗降場の対応が課題

西口自家用車乗降場(2バス)



八戸駅

東口自家用車乗降場(6台程度)



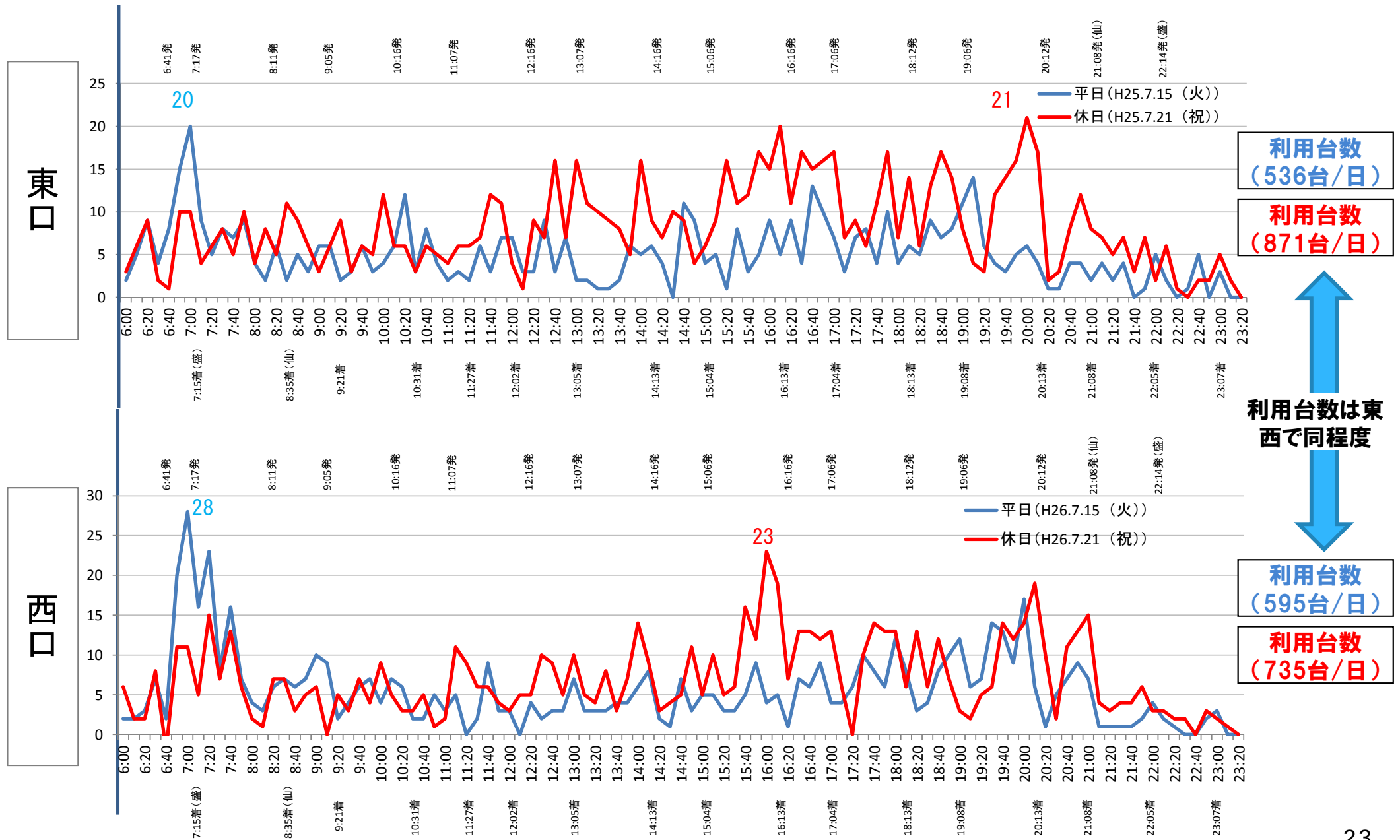
-  P&R駐車場
-  短時間駐車場

※P&Rとは、自家用車などで駅周辺に駐車し、電車やバスを利用すること

※短時間駐車場は、短時間駐車無料の駐車場と定義する。

(5) 自家用車

本編資料P28



▲自家用車乗降場利用台数

(5) 自家用車

本編資料P27

〈自家用車駐車場〉

- ◆短時間駐車場（30分無料）は、15台（東口）、55台（西口）設置。
- ◆P & R駐車場は、東西に多数配置されている。
- ◆満空率は、東口短時間駐車場が高いが、駐車場によって利用にバラつきがある。
- ◆東口駐車場の不足への市民意見が、最も多く、ニーズが高い。
- ◆身体障害者用の乗降場がない。

ニーズの高い駐車場への対応が課題

西口短時間駐車場(55台)



東口短時間駐車場(15台)



-  P & R駐車場
-  短時間駐車場

※P & Rとは、自家用車などで
駅周辺に駐車し、電車やバス
を利用すること
※短時間駐車場は、短時間駐
車無料の駐車場と定義する。

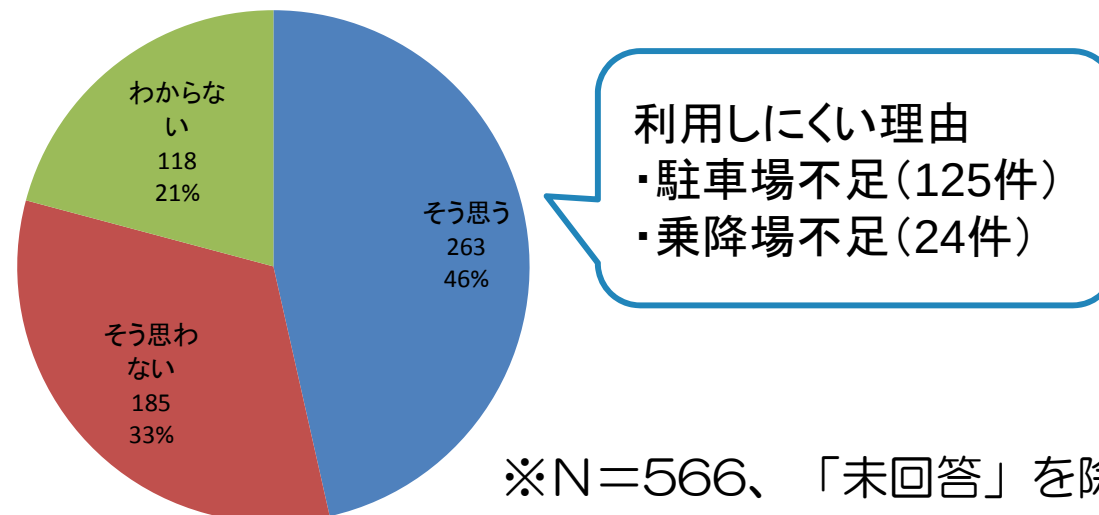


(5) 自家用車

本編資料P29～32



※平均、ピーク時駐車台数は、駐車台数の多い休日を対象に表記
▲駐車場利用状況（休日：H26.7.21）



※N=566、「未回答」を除く

▲自家用車利用満足度（「東口で自家用車が利用しにくい？」に対する回答）

(6) 自転車

本編資料P33

- ◆東口・西口にそれぞれ1箇所駐輪場が配置。
- ◆東口の利用が多く、満空率は8割程度であるが、放置駐輪を多く含んでいる可能性がある。
- ◆西口の利用は、満空率は5割程度で、平日の利用が多く、学生利用が予想される。
- ◆駅周辺の放置自転車は少なく、現在の駐輪場で需要は吸収できていると考えられるが、駅に近接する土地区画整理事業区域からの新たな需要を踏まえる必要がある。

新たな需要を見据えた西口駐輪場の確保

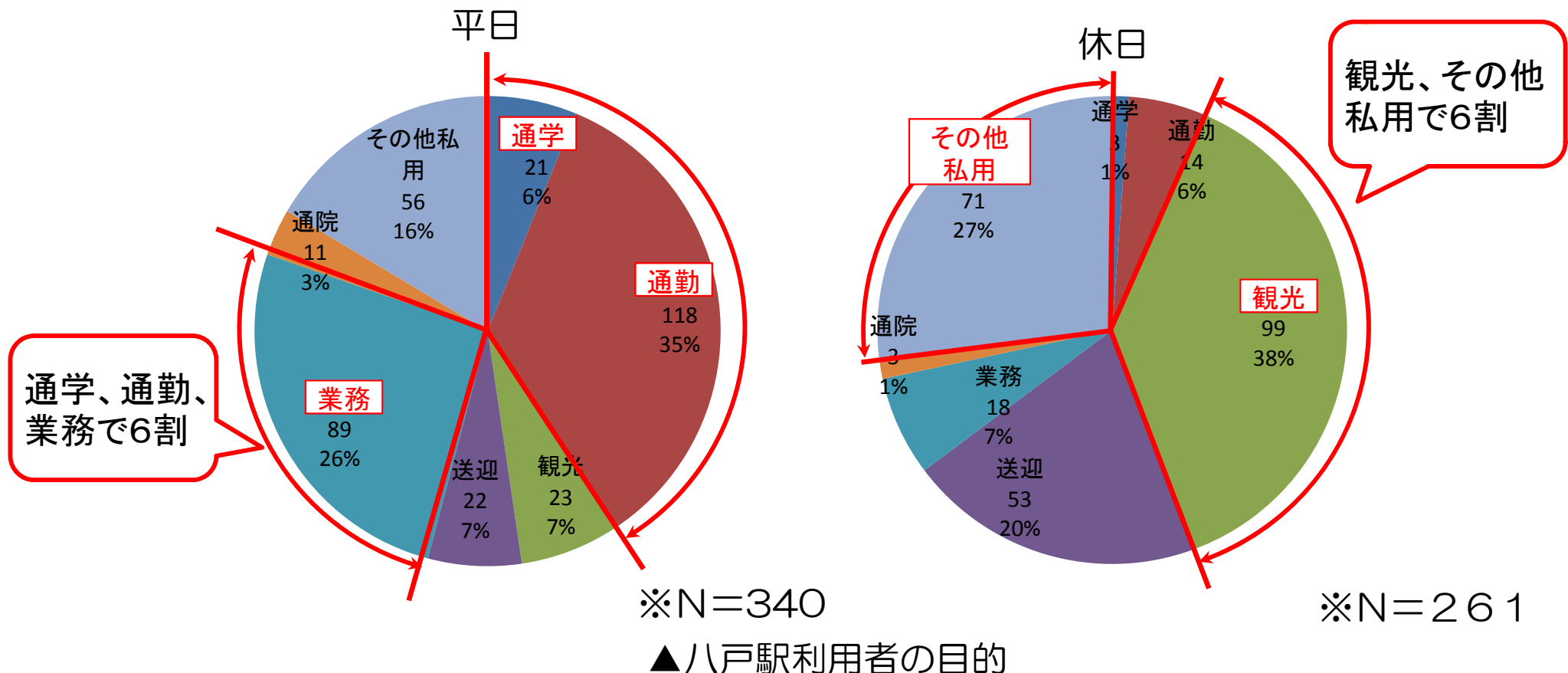


(7) 鉄道

本編資料P36

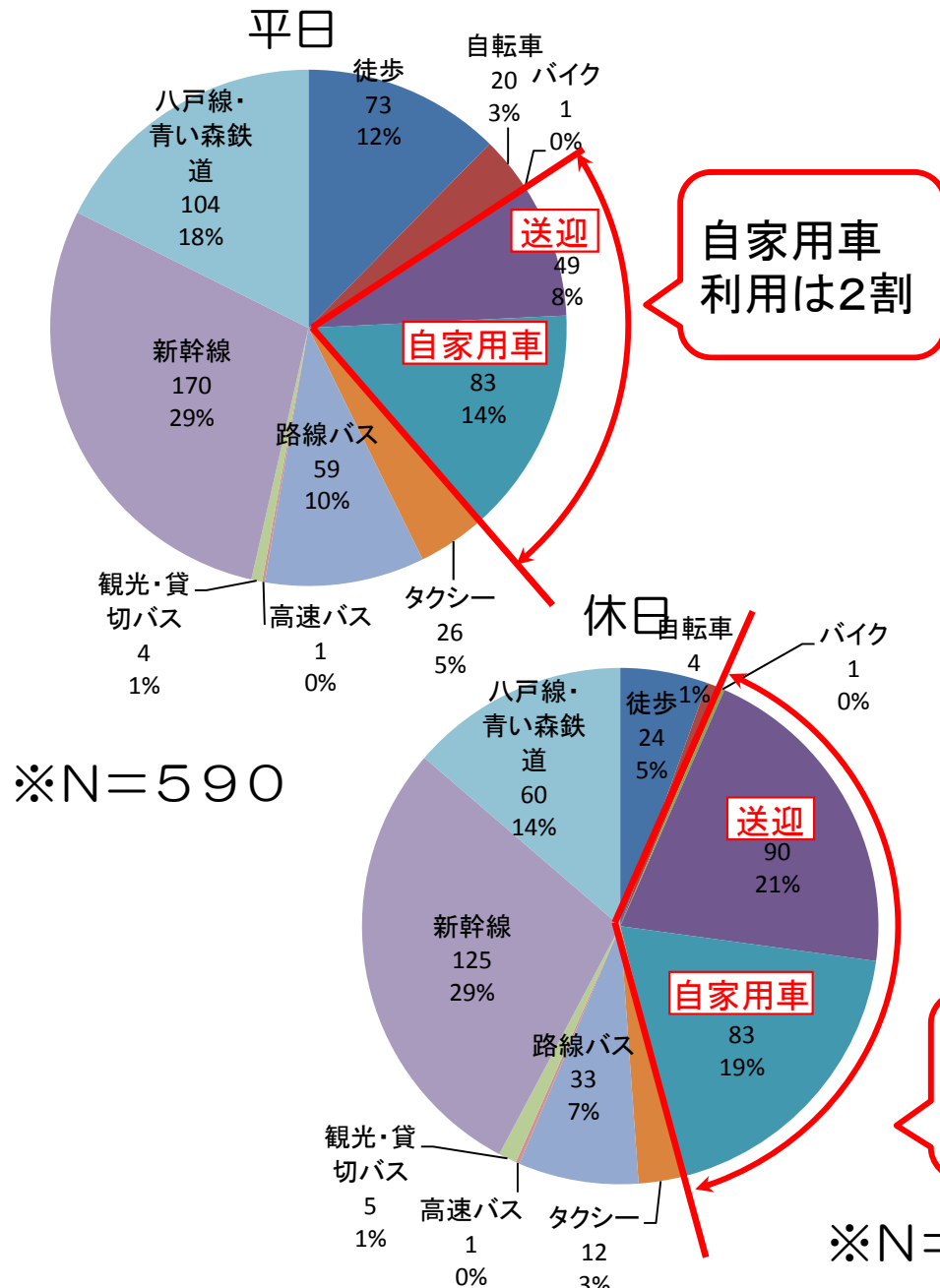
- ◆駅利用者の目的は、平日は通学、通勤、業務で6割、休日は観光、その他私用で6割。
- ◆駅利用者の交通手段は、自家用車利用が多く、平日で2割、休日で4割。
- ◆駅利用者は、八戸市内が半分を占める。南部地域からの利用は5割が自家用車。

利用目的や交通手段の現状を踏まえた導入機能及び交通施設規模の設定が課題



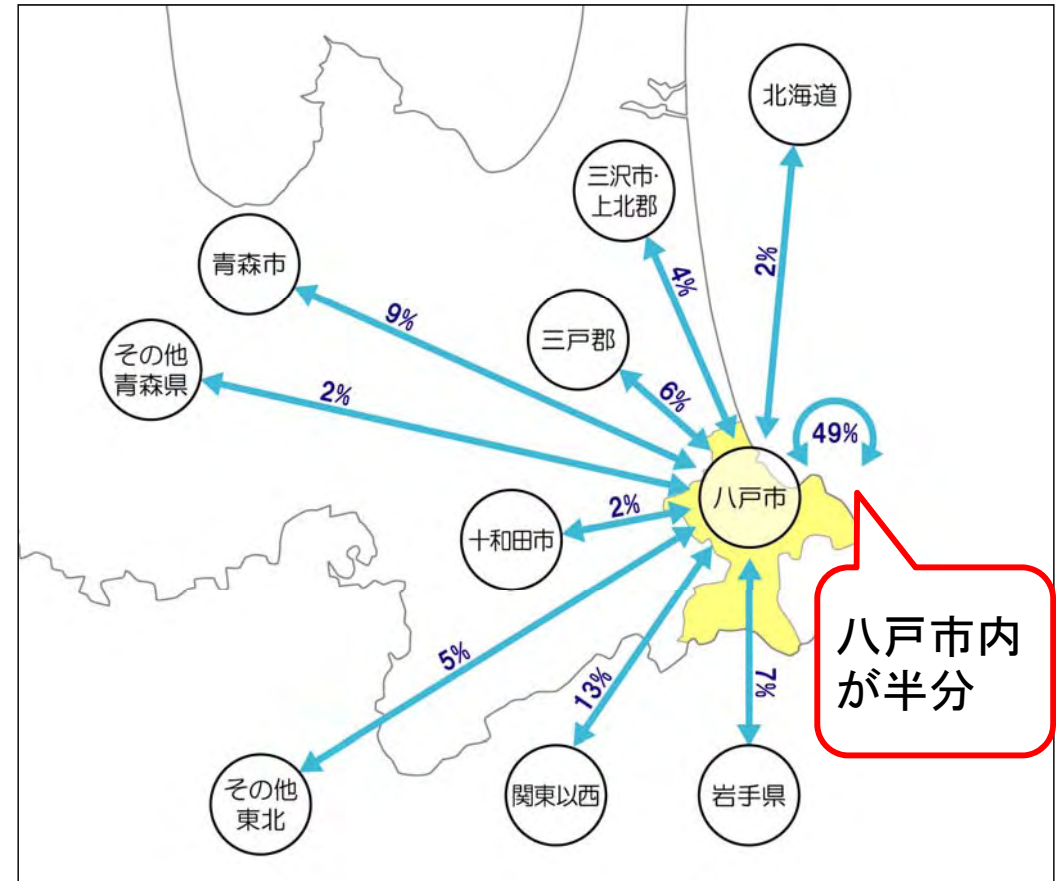
(7) 鉄道

本編資料P36・37



自家用車
利用は2割

自家用車
利用は4割



▲八戸駅利用者の発着地
(平日・休日データの合算)

▲八戸駅利用者の交通手段 (八戸駅発着の交通手段の合算)

(8) とりまとめ

本編資料P39

導入施設	区分	利用状況と市民ニーズ	現況		
			西口	東口	合計
路線バス	乗降バス	◆日運行本数は、180本/日(平日、乗車のみ) ※休日は、139本/日。 ◆発着場所は、「東口BT」に集中し、「西口」の利用は極めて少ない状況(3～6本/日)。 ◆概ね利用満足は高いが、「便数の少なさ」「わかりにくさ」などで利用しづらいという指摘が2割弱。 →西口への配置可能性のあるバスシステムの整理及び配置検討	1	5 ※待機4バス	6
高速バス	乗降バス	◆日運行本数は、3本/日(平日、乗車のみ) ※近距離の「軽米高速線」「岩手競馬優待バス」を含めず。 ◆発着場所は、「東口BT」の5番のりばで、運行本数が少ない。 ◆(仮)八戸西スマートインターチェンジの整備で、高速道路と八戸駅のアクセスが向上する。 →事業者ヒアリング等による高速バス利用ニーズの把握	0	1	1
観光・送迎バス	乗降バス 待機バス	◆観光・送迎用の待機場及び乗降場は、東口に1バス、西口に10バス確保されている。 ◆利用は、西口に集中し、20台/日程度で、ピーク時でも5台/時程度。 ◆利用状況は低調であるが、駅前商店会からは、東口における観光バスターミナルの設置要望がある。 →利用実態と観光客動線を踏まえた規模設定・配置バランスが課題	10 ※待機バス	1	11
					29

(8) とりまとめ

本編資料P39

導入施設	区分	利用状況と市民ニーズ	現況		
			西口	東口	合計
タクシー	乗車 バス	◆乗車バスは、5バス(東口)、2バス(西口)、降車バスは、3バス(東口)。 ◆利用台数は、ピーク時最大52台/h(乗車)、22台/h(降車)。	2	5	7
	降車 バス		2 ※自家用車 併用	3	5
	駐車 台数	◆プールは、63台(東口)、10台(西口)。 ◆待機台数が、乗車台数を上回り、平均待機時間は、60分を超え駐車場化している。 ◆利用者意見は、利用に対しての満足度は高いが、待機スペースが過大という指摘が多い。 →タクシープールの適正規模配置とその運用が課題	10	63	73
自家用車	乗降 バス	◆乗降一体型として、東口に6台程度、西口に2バス設置。 ◆利用台数は、東口と西口で同程度(各500~900台/日程度)。 ◆乗降場の不足や配置への市民意見が多くみられる。	2	6	8
	短時間 駐車台数	◆短時間駐車場(30分無料)は、15台(東口)、55台(西口)設置。 ◆P&R駐車場は、東西に多数配置されている。 ◆満空率は、東口短時間駐車場で高いが、駐車場によって利用にバラつきがある。	55	15	70
	P&R 駐車台数		314	706	1020

(8) とりまとめ

本編資料P39

導入施設	区分	利用状況と市民ニーズ	現況		
			西口	東口	合計
自転車	駐輪場	◆東口・西口にそれぞれ1箇所駐輪場が配置。 ◆東口の利用が多く、満空率は8割程度であるが、放置駐輪を多く含んでいる可能性がある。 ◆西口の利用は、満空率は5割程度で、平日の利用が多く、学生利用が予想される。 ◆駅周辺の放置自転車は少なく、現在の駐輪場で需要は吸収できていると考えられるが、駅に近接する土地区画整理事業区域からの新たな需要を踏まえる必要がある。 →新たな需要を見据えた西口駐輪場の確保	135	204	339
鉄道	目的・手段 ・発着地	◆駅利用者の目的は、平日は通勤、通学、業務で6割、休日は観光、その他私用で6割。 ◆駅利用者の交通手段は、自家用車利用が多く、平日で2割、休日で4割。 ◆駅利用者は、八戸市内が半分を占める。南部地域からの利用は5割が自家用車。 →利用目的や交通手段の現状を踏まえた導入機能及び交通施設規模の設定が課題	平日： 9,484人 休日： 14,273人 ※H26.7実態調査における 新幹線・在来線乗降者数		

（１０）歩行者動線の実態

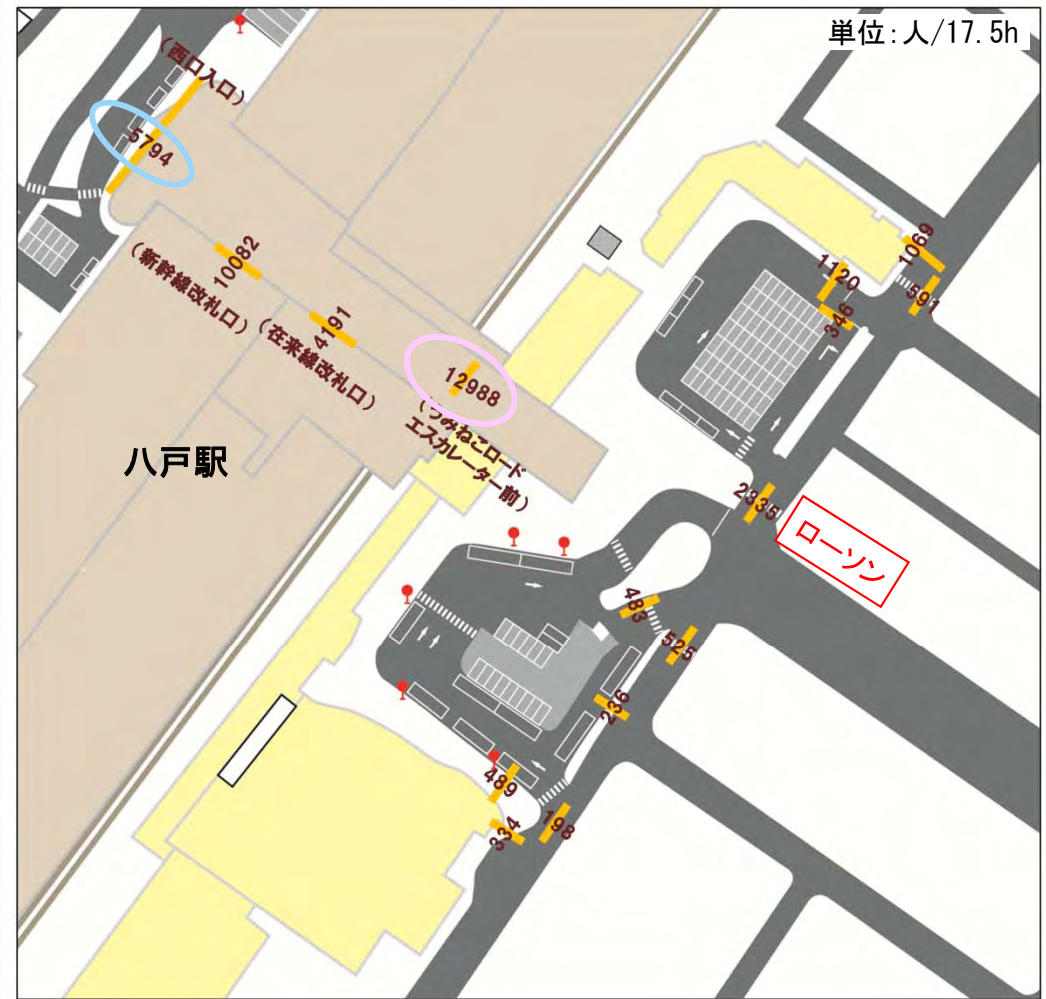
本編資料P40

- ◆駅利用の歩行者は、西口：東口でおよそ１：２の割合。
- ◆東口では、ローソン前の横断歩道に歩行者が集中（約2,500人/17.5h）。
- ◆休日には、駅利用の歩行者が増加し、新幹線改札口では10,000人以上の交通量。

歩行者交通量調査結果（平日） H26. 7. 15（火）



歩行者交通量調査結果（休日） H26. 7. 21（祝）

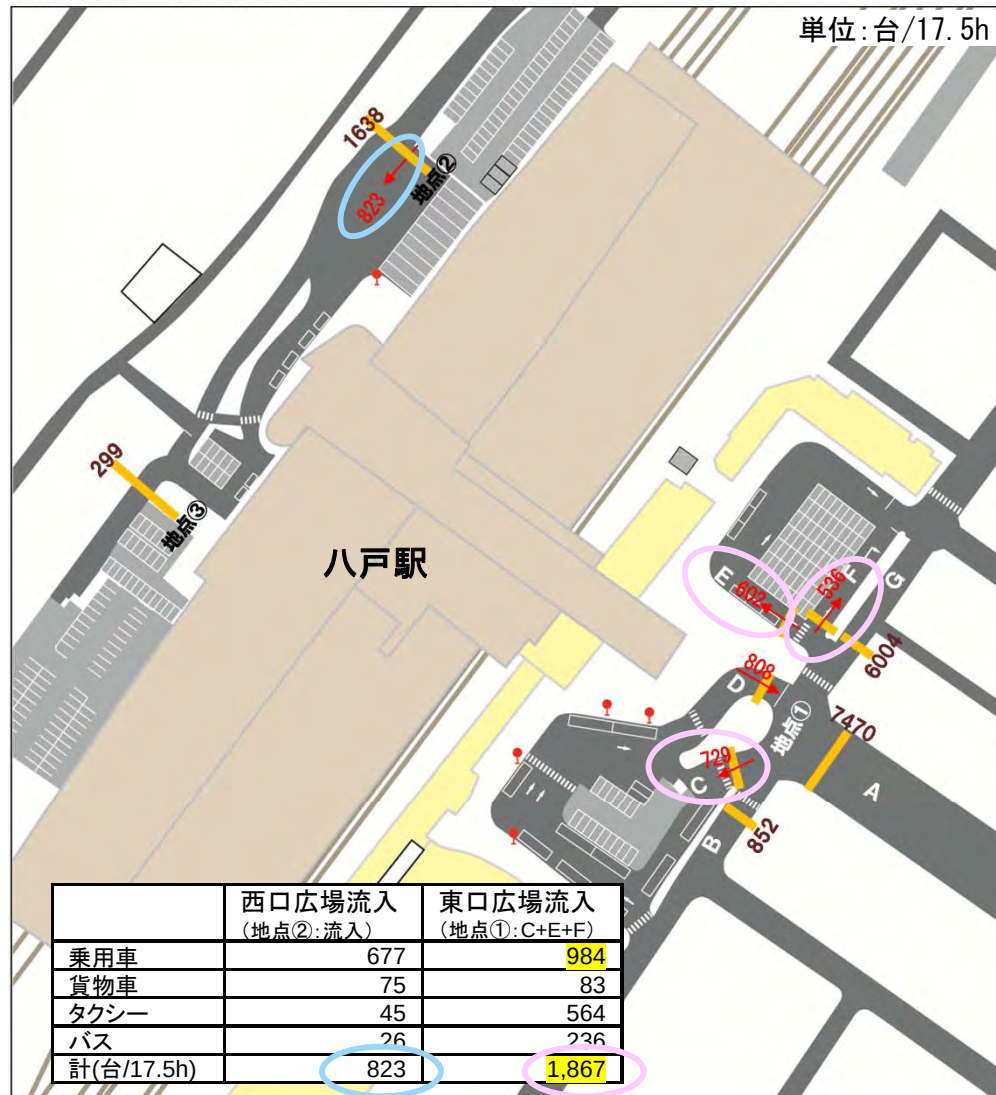


(11) 自動車動線の実態

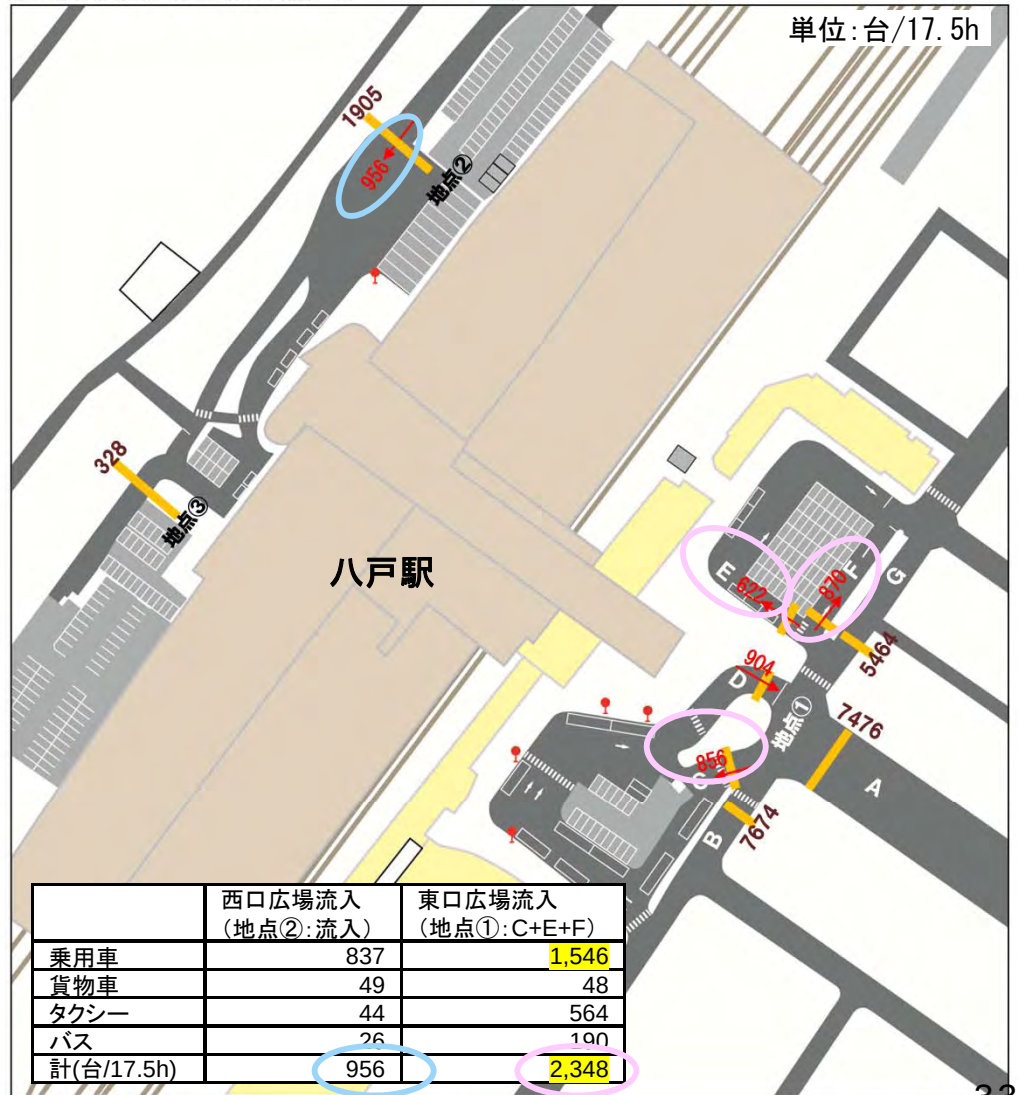
本編資料P41

- ◆駅前広場を利用する自動車交通量は、西口：東口でおよそ1：2の割合。
- ◆休日には、東口広場を利用する自動車が大きく増加し平日の約1.3倍、特に乗用車の増加が目立つ。

自動車交通量調査結果(平日) H26. 7. 15(火)



自動車交通量調査結果(休日) H26. 7. 21(祝)



■ 3. 現状と課題の整理

（１）市民ニーズからみた八戸周辺地区の問題点

本編資料P42

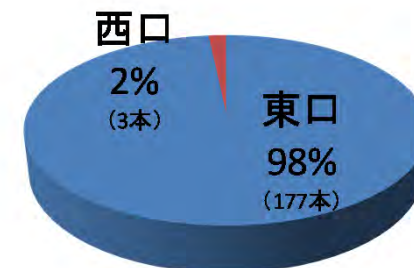
	市民ニーズ	
	満足度	個別意見
バス	利用しにくい 16% ・便数少ない ・わかりにくい	・朝、街までのバスが少ない ・バス停が複数あり、すぐにどのバス停に行けば良いか分からない。 ・市営と南部バスの停留所がごちゃごちゃ
タクシー	利用しにくい 5% ・料金が高い ・乗場が遠い	・乗車場所が離れている、わからない ・西口が少ない、遅い時間までいてほしい ・タクシーの待機面積が広すぎる。いつも何台も待機している。利用実績に応じて縮小すべきなのでは？
自家用車	利用しにくい 46% ・駐車場・乗降場の不足 ・配置・構造上の問題	・短時間無料の駐車場があまりにも少ない。駅まで送ってもらって降りられる場所を増やしてほしい。 ・西口を利用させるための道路とかを整備しないと不便で利用したくない ・自家用車乗降場が狭くていつもいっぱい停められない。タクシーのスペースが大きすぎる。
歩行環境	安全・安心が確保されていない 15% ・歩行空間が狭い、不足している ・信号の歩行者横断時間が不足	・バリアフリー化が進んでほしい ・歩車道分離を明確に ・歩道、道路が狭い ・タクシー駐車スペース、歩行スペース、水はけ悪く冬危ない ・歩行者信号が短い ・ルールが守られていない
広場	憩いや潤いを感じられない 36% ・たまりの空間が少ない ・緑が少ない ・殺風景	・観光案内を見ながら休む場所を ・休憩できる場所がない ・噴水広場にベンチもなくスペースとるなら憩い場増やすべき ・昔からさびれたままで、活気がない ・狭い、殺風景 ・広場をもっと有効に ・おもてなし精神を反映したサイン表示努めて欲しい ・美がない。花とかほしい。

(2) 交通に関する問題点

本編資料P43

●東口に導入機能が集中し、東西広場の機能分担が必要

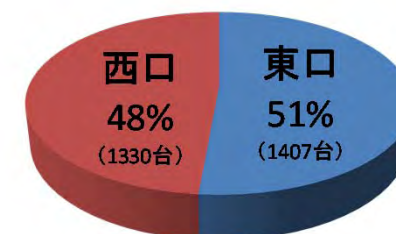
バスの発着シェアが、東口に98%であるように、バスやタクシーなどの交通施設など導入機能は、東口に集中している。一方西口は、暫定的な形状であるが、東西の自家用車利用台数(乗降のみ)は、東西で同程度の実態であり、利用実態を踏まえた東西広場の機能分担が必要である。



▲東西のバスの発着シェア

●交通環境の変化に合わせた東西役割分担が必要

近年中に整備が予定されている(仮)八戸西スマートインターチェンジにより、八戸駅、特に西口から東北自動車道までのアクセスが向上する。そのため、高速バスや観光バス等の広域交通においては、西口の優位性が高まるため、将来を見据えた東西の機能分担が求められる。



▲東西の自家用車利用台数
(乗降のみ)

※平日・休日合計

●自家用車の乗降、駐車需要への対応

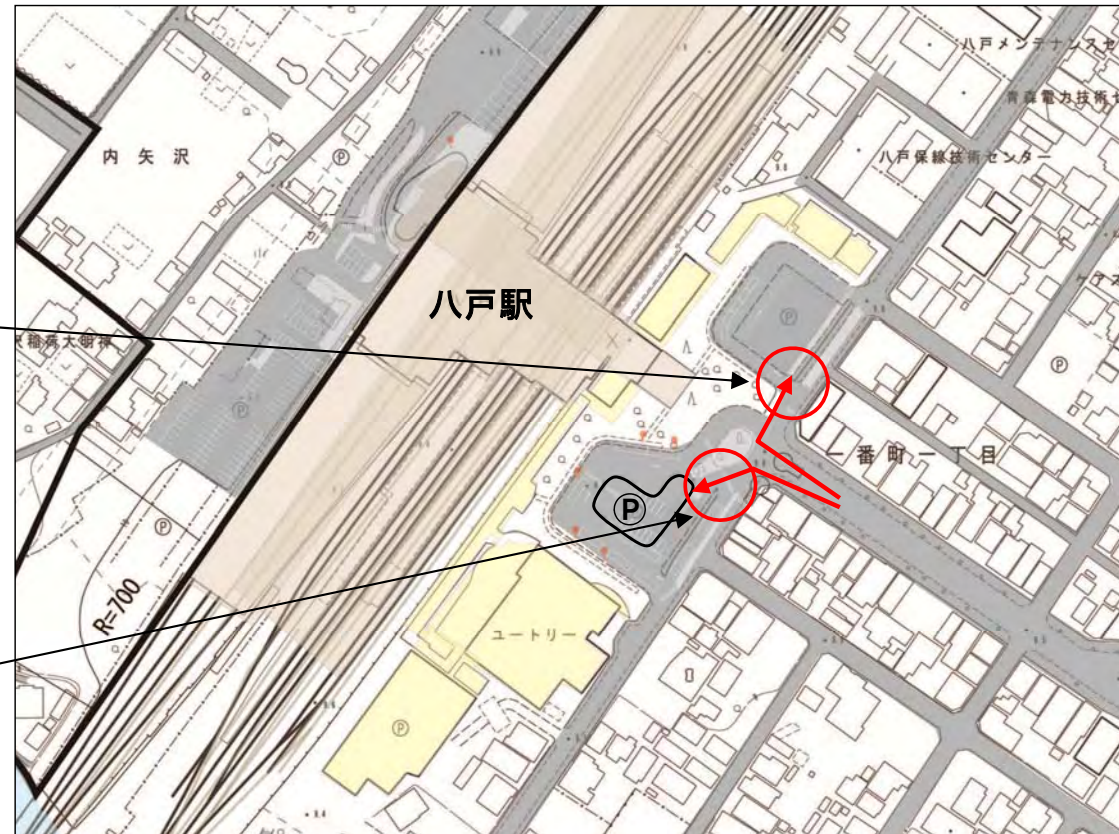
自家用車利用者からの満足度は最も低く、乗降場や駐車場の増設を望む声が最も多い。乗降場については、東口は、動線の錯綜が見られ、配置場所のわかりにくさの指摘が多い。駐車場については、短時間駐車場は、東口の需要は逼迫しているが、西口の短時間駐車場は、余裕が見られる。また、P&R駐車場は、全体的には需要が高い状態と言え、駐車需要を見据えた対応が求められる。

(2) 交通に関する問題点

本編資料P43

●東口短時間駐車場が満車の状態で、輻輳し、混雑している

東口短時間駐車場は、利用が多く、満空率が高く、満車状態であることが多い。そのため、駐車場待機車が直結する駅前交差点にあふれるとともに、バスプール内への侵入を余儀なくされている。また、駅前交差点の構造から動線の複雑さ、わかりにくさをまねき、無理な進入などの発生が見受けられる。



(2) 交通に関する問題点

本編資料P44

●タクシープールが過大傾向

東口駅前広場において、タクシープールの待機台数が、乗車台数を上回り、平均待機時間は、60分を超え駐車場化している。

利用者意見では、タクシー利用者の満足度は高いが、待機スペースが過大という指摘が多い。



▲東口のタクシープール

●観光・送迎バスの需要に応じた対応

東口に1バス、西口に10バスの降車場や待機スペースが設けられているが、利用実態としては、非常に限定的である。恒常的な利用実態とイベント時などの特殊な利用時を踏まえた柔軟な対応が求められる。



▲西口の観光・送迎バス

●歩行者動線の確保

東口においては、歩行者横断箇所が多く、利用者の最も多い駅前交差点横断歩道は、信号時間が短い、錯綜して危険など安全を確保した円滑な歩行者動線の確保が課題。



▲東口駅前交差点横断歩道

(3) バリアフリーに関する問題点

本編資料P44

●冬季・降雨時への対応

積雪、降雨時に円滑に駅内へアクセスする動線確保の声が多い。

●身体障害者用の乗降場確保

身体障害者用乗降場がなく、優先的にアクセス可能な乗降場の確保が求められる。

(4) 交流に関する問題点

本編資料P45

●休憩・待ち合わせスペースが不足している

憩いや潤いを感じない理由として、休憩・待ち合わせスペースの不足を指摘する利用者が最も多い。ベンチやちょっとした木陰で休憩できるスペースを望む声が多い。

また、新幹線などで時間待ちをする方が多いため、時間をつぶすカフェなど施設や公園のようなゆっくりできるスペースを望む声が多い。

●イベントスペースが不足している

駅前には、殺風景だという意見が多く、活性化を望む声が多い。その中で、イベントは有効であり、現在も実施されているが、そもそものイベントスペースが不足している。

また、地域の高校生や年配の方も集えるような地域を巻き込んだイベント開催へのニーズが多い。

(5) 景観に関する問題点

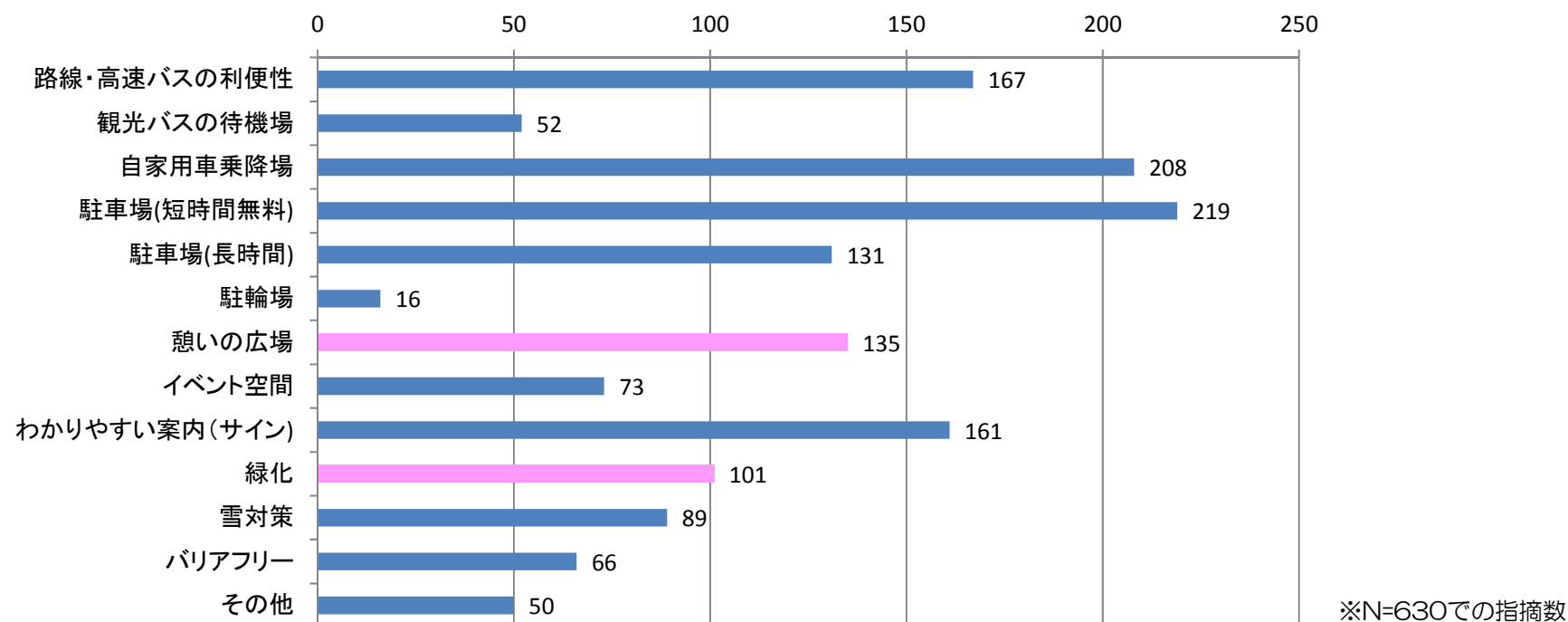
本編資料P46

●八戸の顔（シンボル）となる空間が不足している

八戸駅周辺では八戸の顔(シンボル)なる空間が不足している。

●緑地・公園が不足している

憩える広場や緑地などを望む声が多い。



▲西口駅前広場整備で重視すべきだと思うもの（アンケート調査結果）

(6) 案内・情報提供に関する問題点

本編資料P47

●多種多様な案内誘導サインとわかりにくい誘導

広告や誘導サインの混在や多種多様な誘導サインが無秩序に配置されている上、ユートリーへの誘導がわかりにくいなど、駅改札から自由通路、駅前広場に至る連続的な動線を考慮した誘導が求められる。



▲混在する広告や誘導サイン

●景観性や統一感に欠けるサイン

駅前広場内においては、仮設的なサインが多いこともあり、意匠や色彩が異なるサインが異なり、景観性や統一感に欠けるサインとなっている。



▲景観性・統一感に欠けるサイン

●機能性やユニバーサルへの配慮

表記項目や地図の統一及び観光資源等をアピールできるような案内サインが求められる。また、外国人利用者にも配慮したユニバーサルなサインが今後より求められる。



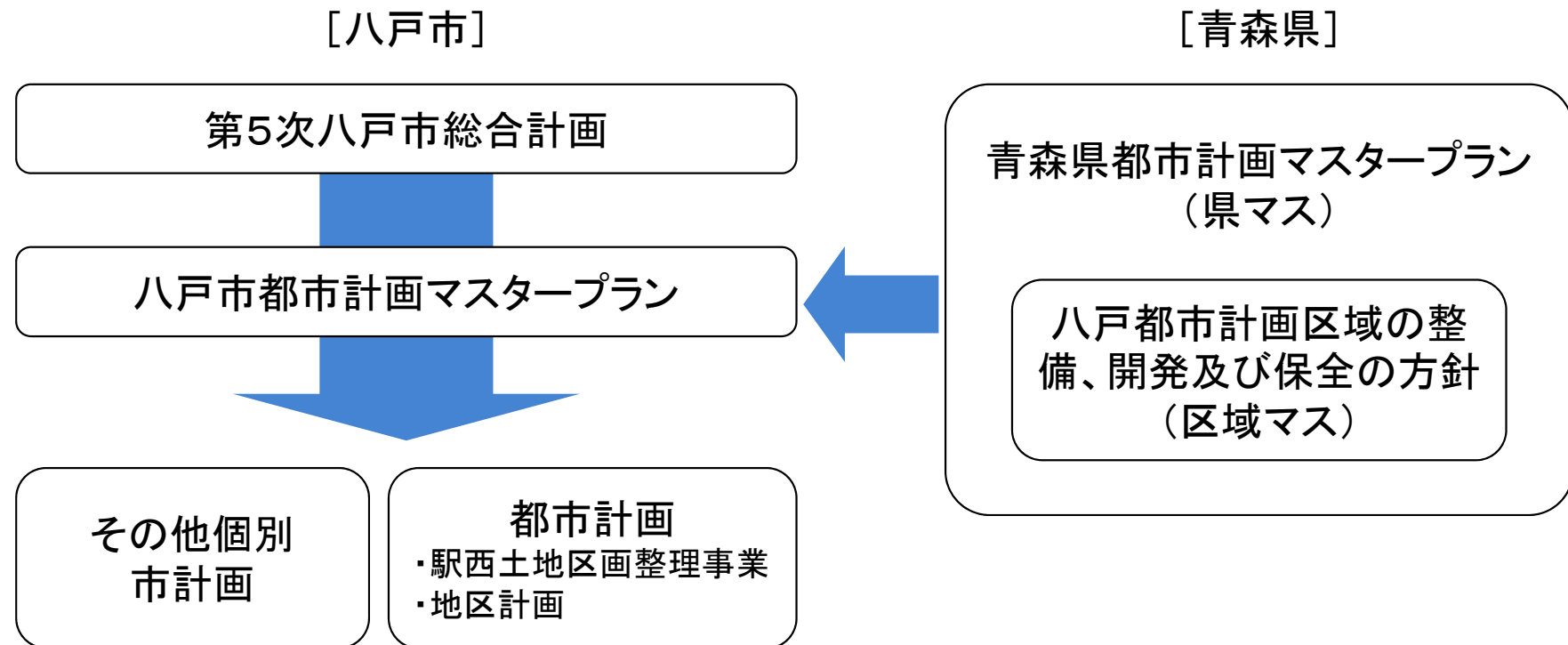
▲わかりやすさ、観光アピールに欠ける西口駅前広場の案内サイン

■ 4. 整備の方向性

■ (既定計画)について

(1) 上位関連計画の位置づけ

本編資料P48



▲上位関連計画の位置づけ

(2) 八戸駅周辺地区の整備方向性（既定計画） 本編資料P50

八戸駅周辺地区

- 地域拠点：商業・サービス機能と市民活動支援機能や交流機能
 - ・広域ゲート・交流拠点
 - ・ターミナル機能、情報発信機能、観光案内機能の充実
 - ・観光機能や宿泊機能、商業・サービス機能、業務機能、広域行政サービス機能の誘導
 - ・内外の交流拠点として、八戸の顔となるような象徴的な施設整備

八戸駅西中央通り線

- ・沿道景観の誘導を図りながらシンボルロードとして整備
- ・車両乗り入れ制限、セットバック2m、用途制限(1階部の住宅等)

東口

- 土地利用・市街地整備の方針
 - ・広域的なゲート・交流拠点にふさわしい業務機能の集積、特色ある商業機能の集積
 - ・商業・業務施設、宿泊・交流施設、会議・展示施設、文化施設、広域行政施設の集積

八戸駅

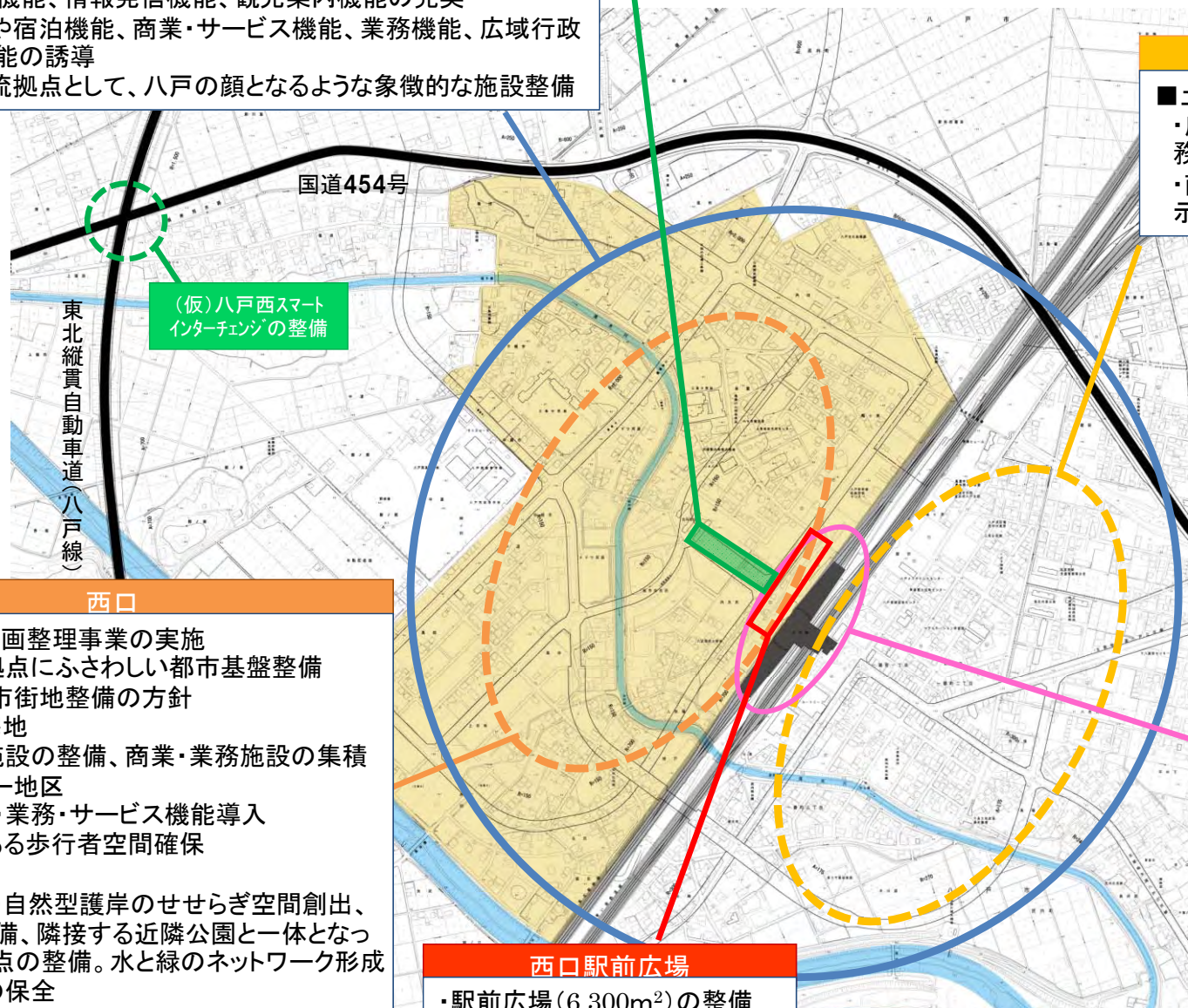
- 観光振興・受入体制充実
 - ・観光案内所、大型横断幕
- 公共交通のあり方
 - ・駅前広場等のターミナルの整備
 - ・中心市街地との公共交通ネットワーク強化、十和田湖などの観光地を結ぶ広域ターミナル機能、P&R用駐車場などの施設整備
 - ・シンタクン
- 案内誘導
 - ・案内の充実、運行情報の提供
 - ・移動案内・サイン整備
 - ・乗継案内サイン整備、待合環境改善、もてなし提供、乗り場改善
- 駅のバリアフリー化
- 交流広場づくり(乗り継ぎポイント)
- 景観
 - ・八戸駅にふさわしい水とみどり創出
 - ・八戸の顔づくり：八戸の海や産業、歴史を感じる景観・駅前広場などの公共空間をシンボリックにデザイン
 - ・駅前につながる道路沿道の魅力的な街並み形成誘導
 - ・賑わいの景域

西口

- 駅西土地区画整理事業の実施
 - ・広域交通拠点にふさわしい都市基盤整備
- 土地利用・市街地整備の方針
 - ・良好な住宅地
 - ・広域集客施設の整備、商業・業務施設の集積
- 駅西センター地区
 - ・観光・商業・業務・サービス機能導入
 - ・連続性のある歩行者空間確保
- 景観
 - ・浅水川での自然型護岸のせせらぎ空間創出、親水空間整備、隣接する近隣公園と一体となった賑わい拠点の整備。水と緑のネットワーク形成
 - ・既存樹林の保全
 - ・形態・意匠規制(色調、修景、広告規制 等)

西口駅前広場

- ・駅前広場(6,300m²)の整備
- ・立体駐車場(500台)整備



IV. 意見聴取

意見メモ

- 八戸駅西口駅前広場整備の方向性についての意見

※東口駅前広場のあり方も含め

- 八戸駅西口駅前広場整備についての個別テーマ別意見

※東口駅前広場のあり方も含め

(交通／バリアフリー／交流／景観／案内・情報提供)

- 八戸駅西口駅前広場整備の進め方(検討委員会や市民との合意形成など)についての意見

- その他意見